
令和 2 年度

美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

令和2年度

美術館教育普及報告書

目次

- 4 はじめに
- 5 本年度の取組み
- 6 キュレータートーク / 学芸員の声
- 7 アーティスト・ギャラリートーク
- 8 ミュージアムツアー
- 9 美術館 学芸員講座
- 10 教職員講座
- 11 県立美術館学校支援プログラム
- 12 鑑賞支援①招聘事業「美術館へ行こう」
- 13 鑑賞支援②団体鑑賞プログラム
- 14 児童・生徒の声（事前・事後）
- 15 教師の声（アンケート）
- 16 ボランティア活動・ボランティアの声
- 17 美術館学校連携授業①志真志小学校
- 18 美術館学校連携授業②伊良波中学校
- 19 美術館学校連携授業③伊良波中学校
- 20 美術館学校連携授業④糸満高校
- 21 中学校鑑賞プログラム
- 22 学芸員実習①
- 23 学芸員実習②
- 24 アートコンクール①
- 25 アートコンクール②（審査講評）
- 26 鑑賞サポートシート①
- 27 鑑賞サポートシート②
- 28 OKINAWA アートワークショップ①
- 29 OKINAWA アートワークショップ②
- 30 こどもフェスタ秋①
- 31 こどもフェスタ秋②
- 32 複製画制作
- 33 おきみゆーシネマラボ
- 34 首里城破損瓦利活用アイデアプロジェクト①
- 35 首里城破損瓦利活用アイデアプロジェクト②
- 36 慰霊の日関連催事
- 37 移動展・職場体験
- 38 展覧会関連催事 石田尚志・沖縄美術の流れ
- 39 展覧会関連催事 大城精徳の仕事
- 40 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ（写真）
- 41 展覧会関連催事 子どもの情景
- 42 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ
- 43 展覧会関連催事 稲嶺成祚展①
- 44 展覧会関連催事 稲嶺成祚展②
- 45 展覧会関連催事 石川真生展
- 46 実施統計
- 50 さいごに・奥付

[はじめに]

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は、現在「おきみゅー」という愛称で親しまれ、おかげさまで開館 13 年目を迎えました。

今年度は、新型コロナの影響を受け、入館者数は 16 万人と前年度を下まわりました。緊急事態宣言で臨時休館を余儀なくされた時も開館を待ちわびている多くの声に励まされ、先の見通しが厳しい状況が続いていますが、来館者が絶えないことに感謝しています。これも県内外の多くの皆様の当館に対する期待と受け止めますとともに、我々に課された使命の大きさを改めて感じているところであります。

美術館の主な活動内容には「収集」・「保存」・「調査研究」・「展示公開」・「教育普及」の 5 つの柱があります。教育普及活動は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流やつながりを大切にし、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出することで、より多くの皆様に美術に親しみ、美術を楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、令和 2 年度に実施した美術館の企画・コレクション展関連催事、学校団体鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアーなど、幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。

常に新しいプログラムに取り組み、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に県立博物館・美術館を活用する契機となりますよう期待するとともに、教育普及活動に対するご理解への一助になれば幸いです。そして、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和 3 年 3 月

沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を縮小し、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」も自粛を余儀なくされることとなりました。しかし、その中でも小学校・中学校・高校・大学と美術館の連携授業は、継続することができ、調査・研究を進めることで大きな成果がありました。

中学生・高校生向けに製作したニシムイ鑑賞プログラムが昨年完成し、教職員に公開しました。今年度は資料を配布し活用してもらえるように出前レクチャーを計画していましたが実施できず、そのような状況の中、美術館のホームページに「ニシムイ鑑賞プログラム」の授業で使える動画を開設したことで、誰もが学びの機会を持てるようになりました。また、2018年から継続しているプログラムとして地元の素材・題材にこだわった、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWA アートワークショップ」は大好評で、今年度も新しいプログラムを開拓していきました。

引き続きの取組みとして、3点の美術品複製を行いました。当館収蔵作品の中から、複製作品を制作することにより、今後「美術館出前授業」や「移動展」にその活用が積極的に行われ、当館の収蔵作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となりました。

本年度のコレクション展では「大城精徳の仕事」「石田尚志展」「山田實展」「子どもの情景」「沖縄美術の流れ」を開催し、たくさんの関連付帯催事を通して作品理解が深まる情報を提供しました。

企画展では「稲嶺成祚展」「石川真生展」を開催し、県内・国内外からも多くの来館者を迎えることが出来ました。

以上のように、今年度も様々な取組みを通し、教育普及活動の充実につながったと考えております。

コロナ禍で、変更を余儀なくされる事業や急な対応が求められたことが多々ありましたが、様々な個人・団体との連携を図ることができました。ご協力くださった多くの皆様に感謝申し上げますとともに、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようにお祈りいたします。

沖縄県立博物館・美術館
教育普及担当学芸員 富原圭子

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の成果を語る場である。

観覧者が、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展覧会がどう伝わったかを知る貴重な機会となり、今後の展覧会に向けた情報収集となる。



●豊見山 愛 学芸員



●大城さゆり 学芸員

【学芸員の声】

本美術館では、県民の美術への関心を高め、理解を深めるため、定期的に講座を開催している。講座・講演会の内容は、収蔵作品や常設展示・企画展示等に関連したテーマを設けて実施している。本年度は2つの企画展「稲嶺成祚展」、「石川真生展」が開催されたが、両企画展の付帯催事では、各担当が催事を企画し、現在進行形で制作を続けているアーティストの講話やシンポジウムを通して、それぞれのアーティストの制作活動を深掘りすることができた。当館のコレクション展では「山田實：こどもたちのオキナワ」、「子どもの情景」などの企画性の高い展示とともに、通年で沖縄の美術の系譜を紹介する『沖縄美術の流れ』を開催し、各担当が講座を行った。自身が担当した「山田實：こどもたちのオキナワ」、および「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」では、展覧会の実施に先立って行った調査研究をもとに講座を考案し、関連する講師の方との調整をしたうえで、より有意義なイベントの実施に向けて毎回準備を行っている。言うまでもなく、講座やイベントについては、来館者のための教育普及活動の一環ではあるが、催事を通して講師や来館者からのコメントなどが寄せられ、それが自身にとっても新たな知見を得るきっかけにもなっている。(亀海史明)



●亀海史明 学芸員

アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺ったり、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて解説頂くことで、新たな気付きや理解がより深まることに繋がっていく。



●宮城篤正氏



●木下晋氏

【作家の言葉】

琉球大学卒業後一年間東京へ行き、西洋画を見て、立体感で勝負をしたら西洋人には勝てないと思いました。大学の講義で安次額金正先生が「日本の文化には平面性がある」と言っていて、在学中は「平面性を克服しなければ」と思っていたのですが、上京後は「むしろ平面性を武器にするべき」と考えました。

アンフォルメルが流行った頃は抽象画を描きましたが、絵画の純粹化を進めると表現の幅が狭くなっていきます。具象性は捨てない方がよいと思うようになり、そこから子どもの描くような形で、荒々しく描いていくパターンが続きます。描写力のある絵は、芸術であるかどうかは関係なく技術のすごさで存在価値がありますが、私は描写力を無くしても芸術になりうるかということを一生涯やっていました。

線の絵を描いて絵画の空間化を試みたり、次は逆に空間を埋め尽くそうとしたり。自分のスタイルを作りながらも変化をつけるために少しずつルールを緩め、やり方を次々試していきます。《太陽のある家族》の頃は、形を説明するための線は引いてはいけないというルール。やまと絵のような鼻の線を引くわけにいかないから、正面向きの顔には鼻が描かれないのです。(稲嶺成祚)



●オープニングギャラリートーク



●稲嶺成祚氏

ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。各担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室における実際の作業に関する説明は、参加者の多くの関心を引いている。夏休みの時期となる8月には、親子を対象としたツアーを実施。

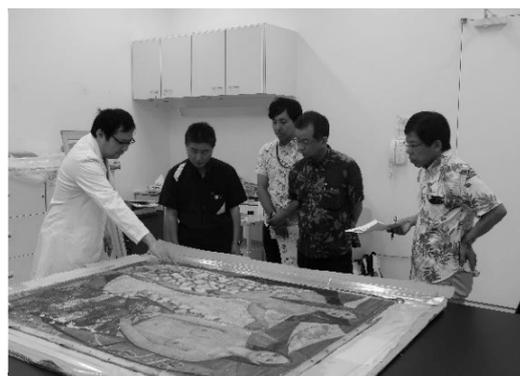
- ① 実施：年5回 土曜日 10：30～12：00
- ② 内容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する
- ③ 定員：12人



●（教育普及・伝える）富原圭子 学芸員



●（展示公開・見せる）大城さゆり 学芸員



●（保存修復・守る）梶原正史 学芸員



●（資料収集・あつめる）亀海史明 学芸員

【作品を伝えていくために】

亜熱帯に属する沖縄では、気候風土など地域の特性に合わせて美術品の保存を考えなくてはならない。しかし、沖縄での美術品の保存に悪影響をもたらしたのは自然環境だけではない。沖縄は、第2次大戦で日本唯一の地上戦を経験し、それまでの作品の大半を失った。戦前の油彩画などは、画家が疎開先などで残してきた作品がわずかにある程度だ。戦後は、地理的な問題にアメリカ統治下であることも加わって、沖縄の作家たちは東京へ作品を出品する際、キャンバス布を木枠から外し巻いて輸送し、搬入先で張り直すという作業をしていたらしい。このような作業が繰り返し行われたため、特徴的な損傷になることもある。保存修復に関する研究は、技術的な内容に留まらず、沖縄の美術品が負わされた事実も調査し、なぜその損傷が起ころざるを得なかったのかを解明していくことも重要である。（保存修復の現場より）

美術館 学芸員講座

当美術館では、展覧会担当学芸員が、ふだんの仕事から知り得た成果を発表するために、学芸員講座を開催している。内容は、学芸員が企画した展覧会作品の見どころ紹介や、修復のことなどさまざまだが、学芸員にとって専門家としての責任を再確認し、社会の需要に目を向ける大切な機会である。でないと、ピノッキオの鼻のように、社会にとって無用の長物となってしまう。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、イベント開催の見合わせ期間が年度の初めから続き、以下3本の開催となってしまったことは、非常に残念であった。

※9月5日(土)に予定していた「美術品の保存について」-保存修復の現場から- (担当:梶原正史)は、イベント開催の見合わせ期間中だったため中止となった。

| 回 | 期日 | 曜日 | 講座名 | 担当 |
|---|--------|----|------------------------------|-------|
| 1 | 10月3日 | 土 | 「稲嶺成祚展」学芸員によるギャラリートーク | 大城さゆり |
| 2 | 11月7日 | 土 | 「山田寛展」『子どもたちのオキナフ 1955-1965』 | 亀海史明 |
| 3 | 11月28日 | 日 | 「子どもの情景」 アートに潜むメッセージ | 豊見山愛 |



●大城さゆり 学芸員



●亀海史明 学芸員



●豊見山 愛 学芸員

【学芸員の声】

私が今年度担当した2つのコレクション展、前年度から引き続いてコレクションギャラリー2で開催した「大城精徳の仕事」と、それに続く「子どもの情景」の付帯催事についてご紹介したい。

沖縄県大里村(現・南城市)生まれで、琉球政府時代の博物館学芸員であり画家でもあった大城精徳の姪御さんより寄贈された絵画19点をもとにした貴重な個展であった。しかしながら、臨時休館で人目に触れなくなり、関係者のトーク・イベントも中止。折れそうな心を奮い立たせて急遽、講師(元・沖縄県立芸術大学学長、宮城篤正氏)へのインタビューを撮影しホームページ上で公開することができた。もっばら、美ら島財団(指定管理者)広報スタッフのK・Mさんが、労を惜しまず映像制作をしてくれたおかげで、ピンチをチャンスに変えることができたのだ。

また絵画、写真、彫刻、版画で構成する30点のコレクションと、10名の沖縄の作家と4名の県外の作家、そして4名の海外の作家で構成する「子どもの情景」の学芸員講座は、モンゴルのウェイ・ドン、沖縄の榎本正治、山元恵一、安谷屋正義、大嶺政寛を、社会的背景も交えて解説した。コロナ禍にあっても美術ファンの情熱を感じ、元気をいただいた。(豊見山 愛)



●豊見山 学芸員講座の様子

教職員講座

沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教諭、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、美術館内のアトリエにおいて図画工作・美術に関する研修を定期的開催している。

図工・美術における授業の指導向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的とした。

今年度は、第58回沖縄県造形教育研究大会（実技研・講演会）の会場として当館が活用される予定だったが、新型コロナウイルスの影響を考慮して、残念ながら中止となった。 ※予定の内容は下記の通り

●第58回沖縄県造形教育研究大会（実技研・講演会）

【日 時】 8月4日（火）中止

【会 場】 美術館 県民・子どもアトリエ・博物館講座室

【参加者】 小学校・中学校・学校美術関係者

【後 援】 沖縄県教育委員会・那覇市教育委員会・沖縄県立博物館・美術館

【協 賛】 ペンてる株式会社

【内 容】 ①ワークショップ ②実践研究発表 ③記念講演会

| | 午前の部 | 午後の部 |
|-------------------|--|--|
| 8/4 (火) 小学部 | ①ワークショップ（小学部）定員 20 名 「絵具」指導について（小学校向け）」 場所:子供アトリエ・県民アトリエ 時間:10:00～12:00（受付 9:50） 内容:用具の使い方、混色の仕方 ※絵の具セット一式、筆拭き用布 | ③（小・中共通）記念講演 定員 50 名 「これからの造形美術教育～AI 時代の課題」 場所:博物館講座室 時間:13:30～16:00 講師:奥村高明氏 （日本体育大学児童スポーツ教育学部教授） （元国立教育政策研究所教育課程調査官 （併）文部科学省教科調査官） |
| 中学部 | ②実践研究発表（中学部）定員 15 名 「美術の授業展開及び情報交換会 （中学校向け）」 場所:博物館実習室 時間:10:00～12:00（受付 9:50） ファシリテーター:造形教育連盟役員 | ※YouTube 「対話から生まれる『教科書美術館』」参照 |



●2019 年度の様子

県立美術館学校支援プログラム

学校支援プログラム内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：〔美術館で〕
2. 美術館出前講座（レクチャー＋チームティーチング）：〔学校へ〕
3. 教育普及キット貸し出し：〔学校へ〕 沖縄遊具体験：〔美術館で〕
4. 博美連携夏休み教員向け講座：〔美術館で〕
5. 小・中職場体験や研究会の研修受入：〔美術館で〕



1. 鑑賞支援プログラム

（1）「美術館へ行こう」（学校招待事業）全域区が対象

- 児童・生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品をもとに鑑賞を行う。（バス2台分補助）
- 学芸員が事前に鑑賞の授業レクチャー・チームティーチングの指導を行う。（学校）
- 当日は、鑑賞ボランティアさんによる「対話を通じた鑑賞」を行う。

（2）「学校団体鑑賞プログラム」

- 学校・学級等で申込した団体に鑑賞ボランティアによる「対話鑑賞」又は鑑賞解説を行う。
- 社会科・総合的学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料を当時を知る手がかりの素材として活用する。（学芸員の出前授業レクチャーと来館しての鑑賞）

※学校の要望等に応えながら学校と美術館で授業を作り上げていきましょう。



鑑賞プログラムの細かい流れについては、学校側との調整になります。

※申込は、当館のホームページよりお願いします。

<http://www.museums.pref.okinawa.jp>



※詳しいお問い合わせは

098-851-5402（美術館直通）

098-941-3730（FAX）

tomihark@pref.okinawa.lg.jp

主任学芸員 富原 圭子

2. 美術館出前講座（授業レクチャー）

- 作品を複製したパネル（ティーチャーズ・キット）での鑑賞授業のレクチャーや、授業の支援を行う。

3. 教育普及キット貸し出し

- 作品を複製したパネル（ティーチャーズ・キット）やアートカード（美術館収蔵作品をもとにした60点のカード）を貸し出し学校での授業に役立てる。

4. 博美連携教員向け講座

- 美術館連携の授業の在り方や博物館・美術館の活用の仕方等の学習会を行い情報提供を行う。

5. 職場体験や研究会の研修の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の教育普及プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できます。



鑑賞支援①招聘事業「美術館へ行こう 2020」

2012年度からスタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」も今年で10年目、今年度は本島中部・那覇地区・南部の小中学校に対して公募を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、取りやめにした。しかし、コロナが落ち着いた10月ごろから学校団体鑑賞ツアーの申し込みが増え、再開することが出来た。博物館との連携も図り博物館常設展示室の見学、企画展「岩石展」学芸員展示解説もプログラムに導入した。例年と比べて学校団体の鑑賞は激減したが、10月から2月にかけて団体鑑賞プログラムも含め6校(266人)の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞活動が出来たことは喜ばしいことであった。

今年度は、ボランティアの鑑賞サポートは出来なかったが、美術館職員による解説や対話による鑑賞を通して多くの気付きと感動が生まれた。この体験が美術館鑑賞のスタートとなったことで、子ども達が今後、作品鑑賞に大きな期待を抱ききっかけになったと推察される。そしてバックヤードツアーをプログラムに入れることにより美術館について興味を広げることが出来た。

| | 学校招聘事業 | 事前学習/打ち合わせ | 来館日 | 参加(人) |
|---|---------------------|------------|--------|-------|
| 1 | 宜野湾市立志真志小学校(5年1.2組) | 9月18日 | 10月6日 | 60 |
| 2 | 宜野湾市立志真志小学校(5年3.4組) | 9月18日 | 10月7日 | 62 |
| 3 | 南城市立百名小学校(6年生) | 10月22日 | 10月30日 | 32 |



●石川高校・稲嶺成祚展鑑賞



●百名小学校・博物館岩石展解説会・美術館コレクション鑑賞



●室川小学校・映像ブース鑑賞



●高嶺中学校・屋外展示場記念撮影

鑑賞支援② 団体鑑賞プログラム

「作品をどうみたらよいかわからない」作品に対してよく聞かれる言葉である。美術館では、その問いに答える様々なプログラムがある。鑑賞サポートシートなどの図版や解説文が印刷されたシート、図録等を用いて鑑賞者が自分のペースで展示を見るセルフツアー、さらに学芸員やボランティアのサポートによるドーセントツアーがある。一人で見ただけでは見えてこなかったことが、サポートシートや対話を通すことによってより深い鑑賞体験をすることにつながっていく。児童や生徒が美術に関する知識・理解を補完していく目的として、学校・地域と美術館が連携して行う鑑賞プログラムである。

| | 学校招聘事業 | 事前学習/打ち合わせ | 来館日 | 参加(人) |
|---|-------------------|------------|--------|-------|
| 1 | 沖縄県立石川高等学校(芸術コース) | 7月8日 | 9月24日 | 8 |
| 2 | 沖縄市立室川小学校(5年生) | 11月5日 | 11月20日 | 48 |
| 3 | 糸満市立高嶺中学校(2年生) | 10月9日 | 11月27日 | 48 |
| 4 | 豊見城市立伊良波中学校(美術部) | 鑑賞サポートシート | 12月19日 | 25 |
| 5 | 子どもアトリエ・ネロ | 鑑賞サポートシート | 12月19日 | 10 |
| 6 | 宜野座村教育委員会 | ニシムイ資料 | 12月20日 | 10 |
| 7 | 沖縄県立那覇西高等学校 | 鑑賞サポートシート | 3月5日 | 中止 |



●学校の教師と鑑賞



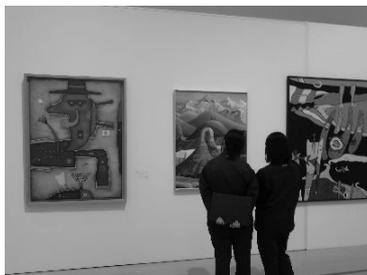
●学芸員による解説



●子どもアトリエ ネロ鑑賞



●セルフ鑑賞



美術館鑑賞学習振り返り

沖縄県立石川高校 芸術探求

沖縄県立博物館・美術館 鑑賞シート

Q1 バックヤードツアーで見学した内容を記入しましょう。
初めて美術食館のバックヤードに入らせていただきました。作品の傷んだところを直すための修復室や沢山の作品を保存しておく収蔵庫など、めったに見れない場所を沢山見ることが出来ました。

Q2 コレクション展であなたの心に残った作品を一つ挙げましょう。

題名 Otto "vanidad"

作者名 シロマアルト

気に入ったところ 大きい想像してんで物以外に物以外でかか

Q3 企画展を通して首里城への想いを書きましょう。(稲嶺先生)

稲嶺先生の作品を見て、色んな絵を書き書いて、人の自画像の絵が真実じゃなくて写真みたいにどうとよんですごいなと思いました。

Q4 博物館で気づいたことを挙げましょう。

沖縄展で博物館、初めて来たんで、自分達がまだ生まれていない頃の生活、食べ物、洋服など沢山展示されていて、リアルすぎて自分がタイムスリップした気分になっていました。

Q5 今日の感想をまとめましょう。

沖縄県立博物館・美術食館、初めて来たんで"おか"どの作品展示もとととすばししかたです。めったに見れない場所を沢山見れたので、いい経験になりました。また見学しに来たいです。

2020年8月21日(金) アクティブ進学クラス芸術探求(音楽)

宜野湾市立志真志小学校5年

沖縄県立博物館・美術館



美術館へいこう!

5年 4組 名前

① 日時:(10)月(9)日(水)曜日

② 見学した感想をかきましょう。

どんな作品を見たかな?どう思ったかな?お気に入りの作品は?

私が一番心に残った作品は、「三美神」です。私は美術館に行く前、「三美神の大きさが、たいてい30cmほどだと思っていました。でも、実際に見てみると、1m近くあったのでとてもビックリしました。このように、絵にも私の想像してはなかったものがたくさんありました。絵の中で、「鳥と人物」という作品がありました。私は、稲嶺成祥さんがかいた作品の時代代いに見回したてんで絵が上手にできてすごいなと思いました。

★美術館鑑賞の振り返り★ 三美神も稲嶺先生の作品です。

1. しっかり絵をみる事ができた (4)・3・2・1
2. 絵をみてしっかり考える事ができた (4)・3・2・1
3. 自分の意見を言う事ができた (4)・3・2・1
4. 友だちの意見をしっかりと聞く事ができた (4)・3・2・1
5. 友だちの意見をきいて自分の考えを深める事ができた (4)・3・2・1
6. 美術館での鑑賞をまたやりたい (4)・3・2・1

沖縄市立室川小学校5年



美術館へいこう!

5年 2組 名前

① 日時:(11)月(26)日(木)曜日

② 見学した感想をかきましょう。

どんな作品を見たかな?どう思ったかな?お気に入りの作品は?

「上川エのマルハン」という絵が絵が破れておりその破れ目が見えるという作品が何かさうたおかげしているような感じでとても作品の中に引きこまされそうになって、そういう事を思うのも作者の工夫のおかげだと思います。美術館ではその美術館のつらを見せてもらいました。その時、部屋の温度やドラックヤードの消毒の時間、けい欄のていや、ゴミのとる足ひた筆を見て、改めて美術館は人の絵を守る所でもありなめる所だと思いました。また行って新しい作品を見たいです。

★美術館鑑賞の振り返り★

1. しっかり絵をみる事ができた (4)・3・2・1
2. 絵をみてしっかり考える事ができた (4)・3・2・1
3. 自分の意見を言う事ができた (4)・3・2・1
4. 友だちの意見をしっかりと聞く事ができた (4)・3・2・1
5. 友だちの意見をきいて自分の考えを深める事ができた (4)・3・2・1
6. 美術館での鑑賞をまたやりたい (4)・3・2・1

糸満市立高嶺中学校2年

◎お気に入りの作品は、最初階段を上ったところのガラスの絵(栗国久直)がすごかった。ぼっと見ると白いペンキでガラスにぐちゃぐちゃに描いたように見えただけ、話を聞いた後によく見ると、たくさん人の姿や鉄砲を持っている人、血などが描いてあった。バックヤードではたくさんのお話を学びトラックの消毒や、温度調整などいろいろな発見があった楽しかった。

◎バックヤードに行けたのがうれしかった。普段は個人で行ったら見られないのに、大きいエレベーターに乗ったり、作品が運ばれてきてからの保管する場所が見られたり、何回も消毒することは、初めて知った。作品をきれいにする場所(修復室)も身近で見れて良かった。美術館はじっくり見ると気づくことや、発見がたくさんあったので楽しかった。

◎私が感銘を受けた作品は、コレクション3室の若い作家さん(平良優季)の横が6Mある大きな作品である。カラフルな色の鮮やかなチョウがたくさん舞っていて、近くで見ると、1つ1つのチョウが触角羽の模様まで細かく描かれていて、地道な作業でも決して手を抜かない、作家さんの努力を感じることが出来た。今まで1つの美術作品からこんなにもいろいろな思いを見出すことはできなかったもので、今回の鑑賞で一つ成長できたと思う。

教師の声 (アンケート)

学校招聘事業「美術館へ行こう」事後アンケート (教師用)

回答数…14 件(ボランティアサポートなし)

■ 今回の学習を終えて、学習のねらいは (目標) は達成できましたか。

- ①達成できた (14) ②良かった ()

- ・ 児童がとても興味を持って鑑賞を行うことができたため
- ・ 美術に触れる、楽しむというねらいは達成できたため
- ・ 好ましい態度で集団行動・体験ができたため



■ 当日の美術館側の対応について (ご意見・ご要望など)

- ①大変よかった (12) ②良かった (2)

- ・ 事前の調整、計画のおかげで時間通りに流れ、スムーズに見学することができた
- ・ 細かく丁寧に教えていただき、子供も大人も興味深く楽しめたので良かった
- ・ 専門の先生が、事前に作品鑑賞の仕方とプログラムを考えてくださり、充実した学習が出来ました。有難うございました
- ・ 企画展示がなかったため、バックヤードのプログラムを入れて頂き、感謝でした
- ・ 解説があったり、バックヤード見学があったりとかなり楽しめました



■ 鑑賞を通して、子ども達の反応はいかがでしたか

- ①大変よかった (12) ②良かった (2)

- ・ 子ども同士、作品の話をする様子が見られ、これを機会に絵画に興味を持ったようだった
- ・ ものをよく観ると意識が高まったと思います。本物の素晴らしい作品に感動していた様子。もっと居たかったという、声も聞こえてきました
- ・ 美術館の見方や、展示までの流れがわかって職場体験的な要素も含まれていた
- ・ 事前学習をしていたので、美術作品に親しみを感じて鑑賞していた
- ・ 児童がいろいろな作品を見る楽しさに気付いていたのでとてもいい活動になった
- ・ バックヤードが楽しかったという意見が多かった
- ・ 普段何気なく鑑賞していた児童も、見る視点や見方が変わっているように感じた



■ 鑑賞をサポートした職員の対応はいかがでしたか

- ①大変よかった (12) ②良かった (2)

- ・ コロナのこともあり、受け入れてくださって有難いことだと思いました
- ・ 一つ一つの作品のテーマや作家の思いを丁寧に説明していただき、大変勉強になりました
- ・ いろいろな視点を与えていただき、児童の鑑賞する意欲を喚起していただいた
- ・ スケジュール、時間配分、そして事前の授業準備もしてくださったので教えやすかった
- ・ 今までは、図工の鑑賞教材づくりに時間をかける余裕がなく、十分な授業が出来ていなかったが、今回は、鑑賞の仕方、指導方法がわかり勉強になった。たくさんお世話になり、有難うございました
- ・ 事前の資料もとても分かりやすく、児童と楽しく学習が出来、当日もバックヤードの見学など、貴重な体験ができてとても良い勉強になりました
- ・ 美術の授業 (事前・事後含)と運動、good、とても良い企画だと思います。次年度も依頼したいです。本当にありがとうございました

ボランティア活動・ボランティアの声

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと美術館関連書籍・新聞を整理する資料整理ボランティアの2つのグループに分かれ、それぞれの特技を生かし活動してきた。今年度は新規ボランティアの養成講座を予定し、準備を進めていたが新型コロナウイルスの影響で募集は次年度に見送られた。継続ボランティアの活動にも影響があり、展覧会ごとの勉強会や館外研修、学校団体の対応は中止となった。しかし大変な状態にあっても、展覧会や関連催事、ワークショップなどに参加し、自己研鑽に励むボランティアも多く、その姿に勇気づけられる年となった。

| 講座 | プログラム | 期日 | 内容 |
|-----|------------|-------|--------------------------|
| 第1回 | 活動説明会+振り返り | 4月15日 | 前年度振り返り・美術班自己紹介・概要説明(中止) |
| 第2回 | 展示解説 | 5月13日 | コレクション展勉強会(中止) |
| 第3回 | 活動説明会+振り返り | 7月22日 | 前年度振り返り・概要説明・展示解説 |
| 第4回 | 館外研修 | 8月19日 | 沖縄県立図書館 館外研修(中止) |
| 第5回 | 今年度の振り返り | 3月末日 | 今年度を振り返り(成果と課題)(中止) |

【前年度振り返りアンケート】

- こどもたちの鑑賞態度が良かった。また、彫刻展では、興味を示す子どもが多く、楽しい時間を過ごしているようだった。
- 初めての美術館で緊張する子の多く、和やかなムードで楽しい時間をすごせたらと思うが、まだ力不足を感じる。ツアー時にボランティアの参加が多い時には、学びの機会にしたいと思う。
- コロナの影響で、参加校が減ったのが寂しい。子ども達には、今を乗り切ればきっと明るい未来が開けるといふ思いを伝えたかった。
- 昨年は、ガイドボランティアの回数が増えたことで、子ども達に話す機会や興味、関心を伝えられたのが良かった。
- 昨年の首里城での勉強会で西村先生から学んだこと、見たもの全てが財産になった。
- 学芸員による展示の事前説明会で学んだことを活かし、作品に説明ができた。



●7/22の様子

美術館・学校連携授業① 志真志小学校

美術館・学校連携授業①「初任者研修」

●宜野湾市立志真志小学校（図工鑑賞）

【実施日時】 7月15日（水）2校時

【場 所】 志真志小学校5年2組教室

【目的内容】 美術館のアートカードを使って形や色などの造形的な特徴を捉えながら、感じたことや思ったことを伝えあい、良さや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める。

【授 業 者】 吉本良太先生

【作 品】 ①山元恵一《貴方を愛する時と憎む時》1951年 ②安次嶺金正《青い空》1972年
③与久田健一《メタフォル》1990年 ④宮城健盛《鶏》1960年
⑤喜久村宏《海中道路》1981年 ⑥大浜英治《ユウコの風景》1981年
⑦ウエチヒロ《アーマン世（太古）海のかたりべ》2005年



授業の振り返り

- ◎みんなは難しくてわからない絵も、思い浮かんだことをぱっぱっとかいてすごいと思った。芸術にはいろんな文字や想像や言葉が出てきて、今日は芸術ってすごいなと思った。
- ◎最初は何も見えなかったけど、いろいろと考えていくうちに何かが見えてきた。あと、友達の考えを聞いたいろいろな納得もしてそうかもしれないみたいな感じになった。
- ◎感じることは時間が増えるにつれていろいろ湧きあがるとわかった。友達の意見を聞くと考えが大きく変わる。考えれば考えるほど題名が気になってくる。

美術館鑑賞ツアー振り返り 10月6日(火)5年1.2組 10月7日(水)5年4.5組

- ◎いろいろな作品を見て、不思議な作品や面白い作品、少し怖い作品もあった。いろんな作家さんの作品は、一人ひとり絵のタッチや色の塗り方、色の種類などが違って見ていてとても楽しかった。私が一番気に入っている作品は「Now…(2)」で、理由は、朝の場面と夜の場面がつながっている不思議な作品だし、絵がすごくきれいで、タイトルも好きだからだ。また、家族や友達と見に行きたい。



美術館学校連携授業②-2

●豊見城市立伊良波中学校（美術1年）

【実施日時】 1月30日（月）3校時

【場所】 伊良波中学校 第1美術教室

【授業者】 島筒 格先生

●授業の振り返り●

生徒がつくった物語と読んだ生徒の感想

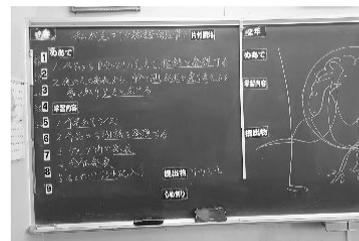
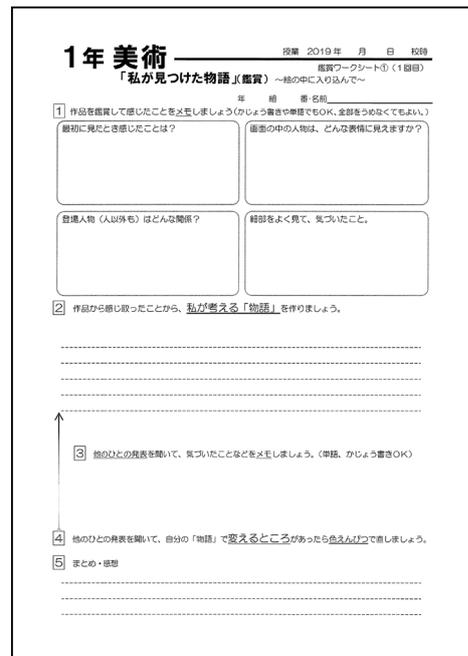
私が見つけた物語(鑑賞)～絵の中に入り込んで～

山元恵一《貴方を愛する時と憎む時》より

ある日、絵や物をつくるのが好きな人がいた。その人は、作品をつくっては芸術だと認めてもらおうとした。でも全て認めてもらえなかった。だから勝手につくってもばれないようなところに「小さな美術館」をつくった。自分で展示して満足だっけど、その美術館に時々人が訪れるようになった。その人達は、展示されている作品を見て「すごくいい」と評価してくれたので、有名になっていった。それを聞いた美術館の館長は、その人の作品でちゃんとした美術館をつくってほしいと言い、夢をかなえることができた。

◎感想

絵の様子を美術館として設定しているのが面白いと思った。ばれないような所に勝手に美術館をつくって、そこに展示している作品が「すごくいい」と評価されるのが、面白い物語だと感じた。



●授業の様子

美術館・学校連携授業③ 糸満高校

美術館・学校連携授業③「平和教育」関連鑑賞授業

●沖縄県立糸満高等学校（美術Ⅰ・Ⅱ芸術課題表現）

【実施日時】 7月16日（木）～22日（水）

【場 所】 糸満高等学校美術室

【目的内容】 沖縄県立博物館・美術館が収蔵する作品
3点を通して、「戦争とは何か」について考える。

【授業者】 有川愛乃先生

【作 品】 ①照屋勇賢《結、You-I》2002年

②宮良瑛子《レクイエム沖縄》1994年

③山城知佳子《あなたの声は私の喉を通った》2009年



●授業の様子

●授業を通して感じたこと・考えたこと●

◎山城知佳子さんの作品解説を読み、深すぎてただ単に感動した。また、授業を通して思ったことは、ぱっと見て何が何だかわけのわからない作品ほど、作品に込められている思いが深く、「どういう意味が込められているのだろう」と自分で考えさせられるのだと思った。だからその作家さんの個性や作品自体が輝くのだと実感した。

◎授業で見た3つの作品とも、戦争を忘れないために描かれたと思う。「結い、You-I」では、一見きれいに見える紅型衣装と思えば、よく見るとそこにはパラシュートや戦闘機など戦争を連想させるものが隠されていた。「レクイエム沖縄」では、赤や黒が多く使われ、沖縄戦のむごさや悲惨さ、醜さが感じられた。宮良さんの「絵描きとは、その時代に生き、その時その時に遭遇した感動、悲しみや怒りから逃げずに描き残すこと」という言葉には、1つ目の作品のように「戦争を忘れるな」という気持ちがあると思う。その言葉がただの言葉になってしまわないように私たちの時代に刻もうと感じた。

沖縄で表現する作家たち（解説）

年 組 番 氏 名

照屋勇賢 「結い、You-I」 2002



タイトルは「ゆい、ゆい」とリズム良く、「結い」という言葉は「ゆいまーる」=人のつながりを意味する。また、「You-I」は他者（あなた）と自己（わたし）という人間関係の最小単位であると同時に、他国（YOU）と自国（I）という関係にも繋がっている。

沖縄の伝統工芸である紅型着物を、美しい花がまがまがしいものに変わる美と皮肉が共存している。基地の重圧のもとでも自然と調和することを見失わない沖縄の人々の知恵と、自然破壊と戦争への警告が感じ取れる。

美しい着物の文様のなかに絡れちゃうほど定着した「他者」とは何者か、様々な表現が見る人へ問いかける。

宮良瑛子 「レクイエム沖縄」



「レクイエム」とはラテン語の「安息」という意味から、鎮魂歌、死者を慰めるために作られた詩歌のことをいう。

宮良は社会派のアーティストとして、政治と社会の矛盾や、その被害者になりやすい、社会的に弱い立場の女性や子供に向けた、強いメッセージをテーマに制作を続けている。

福岡出身の彼女が、沖縄出身の夫と結婚し、1971年本土復帰前の沖縄に移り住み、沖縄のアンマー（女性）に強く魅了され、戦跡巡りを通して遺骨や軍靴などの遺品を目の当たりにし沖縄を描かなければと強い思いを抱いた。

「絵描きとはその時代に生き、その時その時に遭遇した感動や悲しみや怒りから逃げずに描き残すことだと思いませんか」

「私達絵描きは、絵描きである前に、まず人間なんです。ですから、絵だけがいて社会には無関心ではいけないのです」

山城知佳子 「あなたの声は私の喉を通った」 2009



70代の男性から、目の前で自分の家族がサイパン島の崖から身投げしたという衝撃的な出来事を知ったとき、山城は戦争を経験した当事者として自分の越えたい壁を感じて動揺する。当事者の証言に生まれる空白部分が「わからない」と感じた山城は、男性の言葉を書き起こし、その口の動きに合わせて山城自身が語り真似る。その行為を繰り返した結果、空白部分が突如彼女の脳裏に浮かび上がった。少年だった男性の背後から山城が自撃しているヴィジョンが見えた彼女は、その創造の映像が私の戦争体験となった、と語った。彼女の体験は、痛みと困難を伴う行為だが、他者を知ることとはそういうことなのかもしれない。

「戦争反対」「平和を守ろう」という使い尽くされた言葉が本当の意味や想いを失い、単なる「お題」となってしまうリスクがある一方で、「わからない」「共感できない」という素直な気持ちからスタートすることが、綺麗事ではない他者理解と共生の可能性が見えてくるかもしれない。

美術館鑑賞教材「ニシムイ」の開発と鑑賞授業プログラムの発信

開館した平成 17 年(2007)以来当館では、学校との連携を図り、体験を重視した多彩な教育普及活動の推進に努めてきた。当館の収蔵作品を活用した鑑賞学習や、ボランティアガイドが対話鑑賞法によって子どもたちに作品鑑賞をうながす学校を対象とした鑑賞支援プログラムを実施している。また、昨年度(2019)は、戦後間もない時代に沖縄で活躍していた「ニシムイ村」の画家たちに目を向け、新たな鑑賞教材を開発し、鑑賞授業のプログラムが完成した。郷土作品の授業が初めての教員でも取り組みやすいように CD-ROM、指導解説、ワークシート、作家・作品解説がセットとして納められている。

※ニシムイとは

ニシムイ美術村(ニシムイびじゅつむら)は、米軍統治下の沖縄・首里市儀保町(現在的那覇市首里儀保町)において美術家集団が形成した生活共同体。1945年(昭和20年)の沖縄戦で荒廃した沖縄地域の芸術・文化の復興拠点、そして発展の役割を果たした。

1. 鑑賞教材

プレゼンテーション教材には沖縄美術史、美術館の活用方法、マナーなどの教師用指導のポイント、作家・作品の解説等 CD-ROM にまとめ、すぐ使用できるようにした。

- | | | | |
|-----------|--------------|------------|------------------|
| ◆ ニシムイとは | ◆ ニシムイができるまで | ◆ ニシムイと米軍人 | ◆ ニシムイ 10 人の画家たち |
| ◆ 画家たちの功績 | ◆ これからの沖縄の美術 | ◆ 美術館来館説明 | ◆ その他参考資料 |

2. 鑑賞リーフレット

鑑賞資料となるもので、A3サイズの両面刷りにニシムイの歴史、作家・作品紹介が一目でわかるようにまとめている。一般の方も利用できるように展示会場にも設置している。

3. 掲示資料の作成

ニシムイ作家の作品を作家の顔写真とともに紹介している。代表的なコレクションという観点のほか、子どもが親しみやすい作品を選んだ。掲示作品の本物を美術館で見たいという動機づけになるよう構成した。

4. 美術館鑑賞サポートシート

今年度は、館内鑑賞をサポートするワークシートも作成し、鑑賞プログラム「ニシムイ」に連動する内容を加え、作品に親しむきっかけづくりができるように工夫している。各自が自分の視点で作品鑑賞ができる手助けとなるように心がけた。学校連携鑑賞支援の振り返りの一つとしての活用も可能であると思われる。

美術館鑑賞教材は、学校で使える美術鑑賞補助資料として作成したが、学校に限らず、普段の館内やご家庭でも活用できるようにホームページにアップした。多くの鑑賞者が共有でき、開かれた美術館に成長できるようにこれからも教育普及の発展・深化を目指している。そして、これから未来に羽ばたく子供たちが、美術を通して、沖縄及び日本、世界の文化をともに尊重する心を養ってほしいと願っている。



●鑑賞教材 CD-ROM



●鑑賞掲示資料 作家・作品紹介



●リーフレット



●美術館鑑賞サポートシート表面

学芸員実習①

美術館では、開館3年目の2009年から実習受け入れを行っている。例年受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義にあっている。今年度は新型コロナウイルスの影響で実習時期をずらし、講義を分散して実施した。また、県内の沖縄県立芸術大学の11名を受け入れた。

●期間 2020/10/26~11/28

【例年の美術館学芸員実習カリキュラム】

| | | 実習内容 (午前) | 実習内容 (午後) |
|------|---|--------------------------|------------------|
| 第1日 | 月 | 開講式、リインテーンション、I P M | 業務の考え方・博物館施設説明 |
| 第2日 | 火 | 美術館活動の概要及び施設・設備 | 常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究 |
| 第3日 | 水 | 共通課題研究、収集事業概要 | 資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ |
| 第4日 | 木 | 共通課題研究、資料の分類 | 常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際 |
| 第5日 | 金 | 共通課題研究、常設展の実際Ⅲ | 調査研究概要、企画展の実際Ⅰ |
| 第6日 | 月 | 共通課題研究、資料に関する情報処理 | 立体資料の取扱い実習 (彫刻) |
| 第7日 | 火 | 共通課題研究、平面資料の取扱い (油彩・水彩画) | 平面資料の取扱い (版画) |
| 第8日 | 水 | 共通課題研究、教育普及Ⅱ | 平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ |
| 第9日 | 木 | 共通課題研究、作品調査の方法 | 平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ |
| 第10日 | 金 | 共通課題発表、平面資料の実習Ⅴ | 実習のまとめ、閉校式 |



●開校式の様子



●教育普及講座



●調査研究講座

【学生の声】

●県立博物館・美術館についての概要や、各分野専門の学芸員の方々の視点から見た実務のお話など、大変詳しく伺うことが出来た。私が進路選択について考えるうえで、たくさんのヒントとなる機会でもあった。当然、私の進路という個人的な狭い範囲の話ではなく、自分が今、専門的に勉強している事をどうやって社会に役立つような形へ変換するのか、学芸員免許取得を活かすために自分の専門分野において、これから探求していく視点はどこへ焦点を当てるべきのかなど、社会とのつながりという側面で、これからすべきことは何なのかと問われているような気持ちを強く抱かせてもらった。

●大学で講義を受けている時は、資料と向き合い、その保存管理と教育普及が美術館の学芸員というイメージを持っていた。しかし、実際に実習を受けてイベントに参加してみると、それらよりも人を相手にしている。業務の対象として奥に人がいるということがわかった。

●実習で展示が出来るまでの過程や作品の見方を学んで、美術館の楽しみ方を知った。学芸員という仕事のやりがいや苦労、学芸員の職に就くまで、職に就いてからの体験談など学校の授業で聞けない、リアルな話を聞くことで学芸員の仕事を身近に感じる事が出来た。

学芸員実習②

学芸員実習② 共通課題レポートより

●こどもフェスタ秋 2020●

美術館の教育普及について、もっと知識を深めていくため10月31日に行われた「こどもフェスタ秋 2020」に参加しました。美術館側では、ものづくりの楽しさを体験しようということでプログラムが組まれていました。午前は「ヒージャー山羊博士」という題目で体験教室を開催していました。ものづくりに取り組む前に、講師が今回のテーマである「山羊」について、モニターを使いながら分かりやすく解説してくれました。子供だけでなく一緒に来た親御さんも興味深く聞いている様子も見受けられました。その後、粘土を使ってヤギを制作していました。集中して真剣に作っている子もいたり、お母さんやお父さんとお話しながら作っている子もいたりそれぞれが制作を楽しんでいました。基本は自由に制作させていたので、それぞれ違う大きさや形、顔のヤギさんが完成していました。

午後は「首里城の瓦でこねてねじってつくもがみ!」という題目で体験教室を開催していました。去年、火災で焼失してしまった首里城や、つくもがみについて学んだ上でのものづくりに取り組んでいました。今回破損してしまった瓦を使ってつくもがみを作るということを知り、参加者にとってとてもいい経験になったと思うし、作って終わりではなく、この作品を後日美術館で展示して多くの人に共有することができることもこのワークショップの一環なのだと感じました。

2つの体験教室に参加してみて、粘土で1から形や大きさを決めてものを作っていた午前の体験教室に対し、瓦の形や大きさを生かしながらものを作っていたので、ものづくりの流れの違いが感じられてよかったです。

この美術館の教育普及では、沖縄に関連したことを体験教室でも学び、ものづくりを通して沖縄の美術への興味を深めていくのと感じました。参加したワークショップの講師の方々は沖縄県立芸術大学の卒業生であり、美術館の教育普及の事業に関わっていることを知りました。こうした活動を通して、先輩方の活躍を見ることができたのも勉強になったし、尊敬の気持ちでいっぱいでした。今回、こどもフェスタへの参加を通して、美術館の教育普及事業について知識を深めることができました。講義を聞いて知識を深めることも大切ですが、実際に参加してみて気づく事も多くあったのでごく勉強になりました。また、のびのびと制作している子供の姿を見て自分自身の制作意欲も増しました。教育普及は、美術館という場を通して、人と人、人との、人と他の何か結びつく機会を作っていく活動であると、今回の催事を通して学ぶことができたのでよかったです。

●学芸員講座+キュレータートーク『子どもの情景』担当:豊見山学芸員●

『子どもの情景』展の担当である豊見山学芸員の作家解説の講座と、展示会場でのトーク解説という構成になっていた。沖縄を中心としたアジア近辺の作家達の作品の中から、大人からみた子ども、子どもからみた大人などに作品の視点を分けて展示し、子どもをめぐる社会の複雑さを見つめていくというコンセプトで、このコロナ禍のご時世で学校を初め何処にも行けず、家庭にいないてはいけないうちの子どもの今置かれた状況から「子どもの情景」を芸術作品を通してみていくことの重要性を感じ、ぴったりな展示会なのではないかと展示会場でのトーク解説で豊見山学芸員はおっしゃっていた。展示されている作家は沖縄に縁深い作家達である。子どもからみた大人のブースはあったが、あくまで大人視点。大人の視点からみるという「型」に子どもがはめられることへの皮肉なのかと勝手に考察していたが、そんな捻くれた価値観で構成された展示会ではないだろう。作家解説の講座で子どもと社会のファンダメンタルな課題として挙げられたものが子どもの社会的立ち位置である。大人に翻弄される子ども、社会的弱者としての子ども、子どもの人権、なんだか暗く重めのテーマが多いように感じてしまう。希望の象徴でもある子どもは弱者としての側面があり、これは大人という元々子どもだった存在が作り、与えた環境の影響でその側面が際立つ。どのようにすべての大人から過ぎ去った「子ども」を再び捉えるのか、考察が止まらない展示会だった。



●子どもフェスタ



●漆喰シーサー



●学芸員講座

アートコンクール

2017年より、児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指した。引き続き実施することとし、今年度はテーマを「むし」として募集したところ約1484点の素晴らしい作品が集まった。嬉しいことに年々参加者が増え、作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞に選ばれ、11月3日に表彰式を挙行政した。当日は、入賞者のご家族にたくさん列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

展示期間 2020/10/27~11/23

令和2年度 沖縄県立博物館・美術館企画 第4回アートコンクール 入賞者

| 賞 | 小学校の部 | 中学校の部 | 高校の部 | 特別支援の部 |
|-------|--|--|---|---|
| 最優秀賞 | ◎山城 大空 国頭村立辺土名小 6年 | ◎宮城里 菜 那覇市立上山中 3年 | ◎福島 あかり 県立小禄高 2年 | ◎松堂 荘士 豊見城市立ゆたか小 特別支援学級 4年 |
| 優秀賞 | ◎富真 梨心 豊見城市立ゆたか小 2年 ◎村社 佑真 豊見城市立ゆたか小 2年 ◎野底 未琳 豊見城市立ゆたか小 3年 ◎宇座 菜心 豊見城市立ゆたか小 4年 ◎知花 羽純 那覇市立城東小 5年 ◎小橋川 嘉人 伊江村立伊江小 6年 | ◎寄川 紅葉 私立カトリック中 2年 ◎鯉沼 菜音 那覇市石田中 3年 ◎金武 来春 浦添市浦西中 3年 | ◎仲里 妃奈乃 県立糸満高 2年 ◎外間 彩音 県立糸満高 3年 ◎平良 ハイディアン 県立小禄高 1年 ◎金城 琉南 県立真和志高 1年 ◎渡慶次 礼央奈 県立浦添商業高 1年 ◎瀬戸 陽春花 県立浦添工業 1年 | ◎伊良部 悠月 豊見城市立ゆたか小 特別支援学級 4年 ◎高原 けい 県立美咲特別支援 はなさき分校高等部 2年 |
| 優良賞 | ◎赤嶺 颯太 豊見城市立ゆたか小 2年 ◎外間 永起 豊見城市立ゆたか小 4年 ◎古堅 日柊汰 伊江村立伊江小 1年 ◎大城 広瀬 伊江村立伊江小 6年 ◎照喜名 太郎 浦添市立当山小 1年 ◎宮里 咲希 与那国町立与那国小 2年 ◎山中 築太 那覇市立城南小 4年 ◎富真 杏奈 読谷村立古堅小 5年 | ◎福地 葉子 私立興南中 3年 ◎宮城 志帆乃 私立興南中 3年 ◎金城 花音 浦添市立浦西中 2年 ◎福嶺 美彩希 浦添市立浦西中 3年 ◎石原 遙 那覇市立上山中 1年 ◎鈴木 さくら 国頭村立国頭中 3年 | ◎成田 みずな 県立首里高 1年 ◎宮平 鈴音 県立首里高 1年 ◎宇治 愛乃 県立首里高 2年 ◎勝馬 瑠衣 県立首里高 2年 ◎中村 希望 県立浦添工業 1年 ◎津嘉山 絵蓮 県立北谷高 2年 ◎前泊 美耶 私立興南高 1年 | ◎宮里 颯太 豊見城市立ゆたか小 特別支援学級 3年 ◎與那覇 結萌 豊見城市立ゆたか小 特別支援学級 3年 ◎前代 音藍 県立美咲特別支援 はなさき分校高等部 2年 |
| 優秀団体賞 | 豊見城市立ゆたか小学校 伊江村立伊江小学校 那覇市立仲井真小学校 那覇市立垣花小学校 | 那覇市立上山中学校 私立カトリック中学校 私立興南中学校 宮古島市立下地中学校 | 県立首里高校 県立北谷高校 私立興南高校 県立真和志高校 県立浦添商業高校 | 豊見城市立ゆたか小学校 県立美咲特別支援はなさき分校 |



●表彰式の様子

アートコンクール (審査講評)

【小学校の部】(応募数 632 点)

前年度よりも作品数が多く、皆さんの意欲がとても感じられました。今回のテーマ「むし」に対して、実際の色にとらわれず、色合いの工夫をするなど美しく、そしてパワフルに描いた元気のある作品たちは飛び出して見えるくらいの迫力でした。入賞作品は児童・生徒の視点で表現しており、それぞれの作品からテーマやストーリーが見えていた点が評価に繋がっています。今後も一つ一つ丁寧に意欲的に制作に励んでください。

最優秀作品



●国頭村立辺土名小 6年 山城大空

【中学校の部】(応募数 327 点)

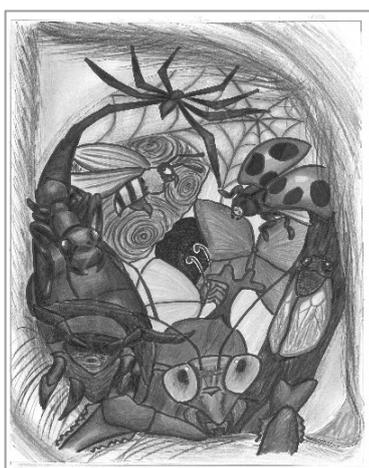
様々な観点から「むし」を描き、自分らしさが存分に発揮されていました。日常であったり、あこがれの空間であったりと人間と虫との共存世界を感じ、いろいろな視点からの作品を見ることができました。各学校の取り組みの工夫、テーマに対する投げかけが見られ、大変好感が持てました。

【高校の部】(応募数 446 点)

昨年に比べ応募数も増え、見ごたえのある、そして楽しい気持ちになる作品が多かったです。ひねりのきいたあっと驚くアイデアで描かれた作品など、それぞれの世界観を配色や構成、画材などの工夫で、技術の高さが伺えました。

【特別支援の部】(応募数 79 点)

大好きな虫たちを独特な視点で色や形を組み合わせで描かれている作品が多く、リズムカルで楽しい作品がありました。絵を完成させた時の達成感や充実感を忘れずに、今後も楽しく表現する情熱を大切にしたいと思います。



●那覇市立上山中 3年
宮城里采



●豊見城市立ゆたか小 4年 (特支)
松堂狂士



●県立小祿高校 2年
福島あかり

審査委員長 ○稲嶺成祚 (琉球大学名誉教授)

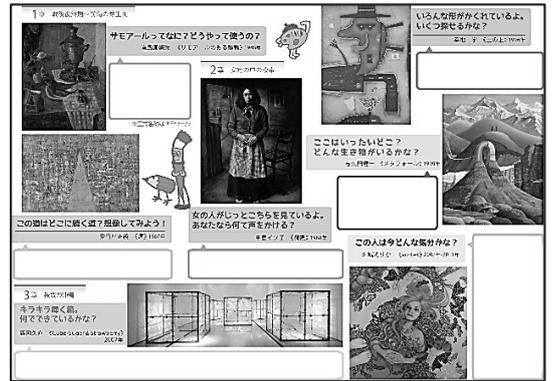
審査委員 ○有川愛乃 (兼城中学校) ○坂元 蘭 (豊見城中学校) ○久場佳奈子 (沖縄工業高校)

鑑賞サポートシート①

通年で展示を行うコレクション3「沖縄美術の流れ」の鑑賞をサポートするワークシートを作成した。中学校鑑賞プログラム「ニシムイ」に連動する内容も加わり、正解を求めない問いかけを軸とし、各自が自分の視点で作品鑑賞の手助けができるように工夫した。そして「ニシムイ美術村」の鑑賞資料も完成し、館内で使用したワークシートを学校でも活用、評価できるように学校連携鑑賞支援プログラムの一つとして広報に当たった。さらに今年度は、コレクション2「子どもの情景」の鑑賞サポートシートも作成した。サポートシートを活用する観覧者の中には、作品に込められたメッセージや、作家がどんな人物かを知ること、新しい発見や自分との共通点に気づき、作品をより近くに感じている子どもたちもたくさんいた。展覧会担当者が観覧者に伝えなかった展示の意図を伝えることが出来たと感じている。



● 沖縄美術の流れ後期【表面】



● 【中面】



● 子どもの情景 1



● 子どもの情景 2

OKINAWA アートワークショップ 2020 ①

沖縄県立美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。2017年度より、「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを実施している。

身近な素材でモノづくりが出来る素晴らしさや、アイデア・発想につながる考え方の修得を目指したワークショップを集結。

※第6回「琉球漆器 沈金を楽しもう」は新型コロナウイルスの影響で次年度に延期とし、現在日程の調整を行っている。



| | 講師（県内・県外） | 内 容 |
|-----|--|--------------------|
| 第1回 | 岩本久和・益田伸次・伊波 孝・下地 智 | 六角形の畳をつくろう |
| 第2回 | 赤嶺康浩（工房ニヤン山） | 糸満ハリコ絵付け体験！ |
| 第3回 | 山城富函・大城幸佑・田端 忠・城間盛行 古堅智貴（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合） | 首里滋養破損瓦で漆喰シーサーに挑戦 |
| 第4回 | 吉濱 愛・玉城政子（城紅型染工房） | 千支紅型でお正月仕度（丑年） |
| 第5回 | 上原俊展（金細工まつ） | 錫を溶かしてネームプレートをつくろう |
| 第6回 | 漆実験工房 | 琉球漆器 沈金を楽しもう |



●第1回 六角形の畳をつくろう



●第2回 糸満ハリコ絵付け体験！



OKINAWA アートワークショップ 2020 ②



●第3回 漆喰シーサーに挑戦



●第4回 干支紅型でお正月支度



●第5回 錫でネームプレート

こどもフェスタ秋②

こどもフェスタ秋②



●ヒージャー山羊博士！



●こねて ねじって つくもかみ

複製画制作

現在美術館が収蔵する各種美術品は、保存管理の面から館外持ち出しを制限している、そのため収蔵品を見るには当館へ直接来館してもらうしかない。

美術館教育普及事業の一つとして実施している「美術館出前授業」では、収蔵作品を紹介する場面と必要性がある。授業展開を深める目的で、できるだけ原画に近い色合いや大きさに近づけ、紙に印刷したものを授業では利用していたが、子どもたちにはできるだけ原画と思わせるような作品を鑑賞させたいと感じていた。

昨年度より進められてきた複製画計画は、関係者間で何度も意見交換と作品選定を行い制作し、「美術館出前授業」・「移動展」での活用が実現した。今年度は、その第2弾として3点の作品を選定し、制作にあたった。当館収蔵作品の複製作品を制作することにより、その活用が積極的に行われ、作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味関心を抱かせる機会につながればと考えている。



●南風原朝光
「サモアールのある静物」1948年



●川平恵造
「Now…… (1)」1980年



●大嶺政寛
「八重山風景」1970年



●色校の確認



●展示室にて



おきみゅーシネマラボ

所蔵作品や所蔵作家など、当館ゆかりの映像資料を館内で上映し、その上映中にトークを行う美術館ならではの映像鑑賞体験を共有する企画。館内映像資料の活用とともに、まだ当館に訪れたことのない新たな来館者を呼び込む機会とすることを目的として今年度で2回目。また沖縄における映像文化のオーラルヒストリーを記録、継承する機会とした。

| 内容 | 講師 | 上映作品 |
|---------|--|--|
| トークイベント | <ul style="list-style-type: none"> ●富本 実 (映画監督) ●謝花 謙 (映画監督) ●真喜屋 カ (沖縄アーカイブ研究所) ●亀海史明 (当館学芸員) | <ul style="list-style-type: none"> ●富本 実 《謝花昇を呼ぶ時》1976年 ●富本 実 《1975年の夏》1975年 ●謝花 謙 《ヤマングーヌティータ》1978年 ●謝花 謙 《ヒッチ・ハイカー》1977年 |

【アンケート(10/25)】

- 企画していただき有難うございました。懐かしかった。ダメなものはNO という勇氣、先輩たちの行動は素晴らしい！！
- 昔の沖縄を知る貴重な記録で、復帰前後の時代の人たちの考えを知ることが出来た。
- 見たこともない古き沖縄の風景が見られた。コザの街の繁栄ぶりに感動した。
- 教員をしているが、学生たちの教材に活かせると感じた。
- 制作秘話や苦労話が面白かった。
- 自らの子供時代が知りたかった。
- 2人とも才能がある。70年代16mmで撮った映像を見てびっくりした。
- 日大芸術学部の話、興味深かったです。今の政治、沖縄の現実と結びついた話、作品チョイス、並びも良かった。今後もぜひやって頂きたい。
- 作り手や時代背景など、様々な角度から映像に触れることができるのでトークセッション形式はいいと思う。
- コロナ禍で沖縄の祭りや伝統行事が中止になってしまったので、それに関する内容が見たい。埋もれていたフィルムが眠っていると思うが、掘り起しは良いことだ。
- 復帰の時「私たちが置き去りにしたものがある」というのが印象に残っています。私たちはそれを聞く姿勢を持たないといけないと思います。
- 作品の成り立ちや、監督2人の交友も知れて面白かった。今後のリバイバル上映も期待する。



●トークイベントの様子

首里城瓦利活用アイデアプロジェクト①

2019年10月31日未明に発生した火災により、琉球王国の象徴であり沖縄県民の誇りであった首里城正殿を含む建物8棟と施設内に展示、保管されていた文化財の多くが焼失する被害を受けた。

首里城の特徴的な赤瓦については、焼け残った瓦等（以下、破損瓦等という）を首里城の思い出として活用したい、との声が県民から多く上がっていた。そこで首里城への「思い」を多くの人が共有し、また形として残していくことを目的として、沖縄県が破損瓦等の利活用についてアイデアの募集を行い、様々なイベントや活動が実施されている。美術館でもこのプロジェクトに選ばれた2団体(下記)と連携し、ワークショップを実施することが出来た。

【主催】：沖縄県、沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所、(一財)沖縄美ら島財団

【後援】：那覇市

【参加団体】：①学びアトリエわりたまご 代表 比嘉光里 2020年10月31日 実施

②沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合 代表理事 田端 忠 2020年11月7日-8日 実施

| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">つくも神を作ろう！</p> <p style="text-align: center;">学びアトリエわりたまご</p> <p>破損瓦をカケラとして捉え、熱い思いの込められたカケラに宿る、つくも神を表現するワークショップを行う。また作品の展示を通して、参加者だけでなく、展示を見た多くの人と作品に込められた願いを共有する。</p>  <p>※ ワークショップの詳細な内容や日程については、インスタグラムでご確認ください。</p> | <p style="text-align: center;">漆喰シーサーに挑戦!!</p> <p style="text-align: center;">沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合 代表理事 田端 忠</p> <p>漆喰シーサー制作のワークショップを開催し、シーサーや赤瓦の歴史だけではなく、首里城の建築技法や職人の技について学ぶ。沖縄文化の素晴らしさ、伝統技術に触れる場を提供すると同時に次世代への技術の継承、発展へと繋げる。</p>  |
| <p>●名称● 首里城の瓦を使ってこねて ねじって つくもがみ！</p> <p>●活動目的● 首里城破損瓦等の瓦礫を「カケラ」として捉えなおし、職人の熱い魂の込められたカケラに宿る「つくも神」を、ものづくりを通して表現するワークショップを行う。首里城の悠久の歴史を学び、沖縄のシンボルに触れることで参加者の帰属意識を高めていく。その後、参加者の作品を展示し、作品を通して繋がりを感ずることができる。また、人と人の繋がりが希薄になっている今こそ、参加者同士のみならず、展示をみた多くの人と想いを共有することができる。</p> <p>●活動内容● 「首里城のカケラを使ってみんなでコネコネ つくも神を作ろう」展示鑑賞。</p> | <p>●名称● 漆喰シーサーに挑戦！！</p> <p>●活動目的● 漆喰シーサーの制作を通して、シーサーや赤瓦の歴史だけではなく、首里城の建築技法や職人の技について学び、地元沖縄の文化の素晴らしさ、また伝統技術の高さに触れる場としたい。さらに、伝統技法を体験しながら作品を作る機会を提供することで、次世代への技術の継承、発展へ繋げたい。</p> <p>●活動内容● 昨年に続き2度目の開催となる小学校3年生から一般を対象としたワークショップの中で、漆喰シーサーの胴体や細部のパーツとして首里城の赤瓦を使用する。制作後には参加者と講師で鑑賞会と館内での展示を行う。</p> |

首里城瓦利活用アイデアプロジェクト②

首里城の瓦で 2020.10.31

こねて ねじって つくもがみ!

参加者の声 (子ども 13 名)

◎つくも神は、わからなかったけど、ワークショップに参加して意味を知ることが出来たので良かったです。それと、自分で作るつくも神だから、自分の願いを込めて作れるのが良いなと思いました。

◎粘土がとても楽しかったです。(6)

◎粘土で神様が作れて楽しかった。また、参加したいです。

◎むずかしかったけど、がんばった。

◎かおをたてたり、土台を作ったりするのが難しかったけど、首里城の瓦を使えたのでうれしかった。

◎つくも神がつくれてとてもたのしかったし、首里城のことについても知ることが出来てよかったです。

◎形を作るのが楽しかった。イメージがわいて、面白かった。集中できた。作り終わった後のたっせいかんが多かった。

◎首里城の瓦を触れてよかった。

◎首里城の大切な瓦を使ってかわいいう神様が出来たと思います。つくも神様のパワーをもらって元気に成長してほしいと思います。(保護者)

◎首里城の貴重な瓦を利用した企画に参加したいと思い応募しました。首里城について学び瓦に宿るつくも神をイメージしたことで子どもも首里城への思いを改めて感じる機会になりました。ありがとうございました。(保護者)

※付喪神、つくも神(つくもがみ)とは、日本に伝わる、長い年月を経た道具などに神[要出典]や精霊(靈魂)などが宿ったものである。

「九十九神」とも表記する。「九十九」の文字には「長い時間(九十九年)や経験」「多種多様な万物(九十九種類)」などを象徴する意味合いが込められている。人形や木彫りの動物といった、生物の形をした物に付喪神が宿りやすいとされており、また名称に「神」が付いている事から、妖怪ではなく神の類ではないかという説もある。



漆喰シーサーに挑戦!! 2020.11.7-8

参加者の声 (大人17名・子ども1名)



◎楽しかったです。ありがとうございました(8)

◎制作するとはまってい夢中で取り組んでいました。とても楽しかったです。名工さんたちの制作風景が見ることもできて、とても良かったです。ずっと見てられます。

◎首里城の写真展示や名工の方々の新聞や展示もあり、とても興味深かったです。楽しく制作でき、名工の方々のシーサーはどのように作られるか見ることができ勉強になりました。

◎今回は首里城の瓦を使わせてもらえて、本当に有難いなと思いました講師の方々も優しくチャームングで、とても良い時間が過ごせました。家で大事に扱いたいと思います。

◎とても楽しかったです。次回もあれば参加したいです。参加料が寄付ということ感謝いたします。

◎首里城のプロジェクトマッピングを見たばかりだったので、破損瓦を使用できることにびっくり!! 使わせていただけることに感謝。我が家の守り神にします。また、参加します。2日間ありがとうございました名工の皆様にご指導いただき感謝です。

◎楽しく作成させてもらいました。今後も継続してほしい企画です。首里城の瓦ということにより記念になりました。

◎予想外に1体の大きさにびっくりしました。来年はオスのほうを今回以上に丁寧に作りたい。ご指導ありがとうございました。

◎貴重な首里城の瓦を使ってシーサーが作れて有難い気持ちです。現代の名工の先生方に指導して頂いただけでもうれしかったです。直接ご指導くださり、ありがとうございました。昔の漆喰づくりのお話が興味深かったです。また、そのような話をうかがいたいです。

◎彩色3色(墨、瓦の色、漆喰の色)とてもすてきだと思った。名工の方のナイフ使いがとてもなめらかで、驚きました。ささいな疑問にもとても丁寧に回答いただいた。

◎前は頭が下の形(ホーヤシーサー)を作りましたが、今回は立ちシーサーを作りました。色の付け方は似せて兄弟シーサーにしました。とても面白かったです。寒家に送る予定です。(兵庫県)すごい先生方なのに、好きなようにさせてくださり、困っているときにさっと助けてくださって感謝です。ありがとうございました。

◎あまり聞けなかったことをたくさん聞いて楽しかったです。

◎去年のポスターで知って参加したかったのですが、子供がいっぱいかなと断念し、参加したいと思い電話確認し、参加出来ました。思った以上に難しかったですが、自由ということだったので、とても楽しく作ることが出来ました。そして、講師の方々の作品がとても素晴らしい、目の前で過程を見ることが出来て幸せでした。あと、首里城の瓦といっても今回本当に貴重なんだということも聞いてとても大事にしていきたいです。来年も参加したいです。



●「こねて ねじって つくも神」エントランス展示

●「漆喰シーサーに挑戦!!」エントランス展示

慰霊の日関連催事

今年は沖縄戦が終結してから 75 年の節目を迎える。沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦を直に語ってくれる人が少なくなってきた。学校現場でも、年々沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では 2017 年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさや命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会とすることを目的としている。例年エントランスやギャラリーで読み聞かせを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言後に当たり、催事開催が厳しい状況であったため、事前に読み聞かせを撮影し、エントランスにおいて 10 日間モニター上映を行った。

- 【場 所】 沖縄県立博物館・美術館 1 階 エントランス
- 【日 時】 令和 2 年 6 月 19 日（金）～6 月 28 日（日）上映
※撮影日 6 月 12 日（金）14 時 美術館班会議室
- 【読み手】 宮城アケミ（沖縄大学教授・沖縄県立博物館・美術館鑑賞ボランティア）
- 【対 象】 一般、参加無料
- 【作 品】 ①『つるちゃん』金城明美・作 ②『へいわってどんなこと?』浜田桂子・作
- 【内 容】 博物館・美術館教育普及連携催事で、館内エントランスに TV モニターを設置し、沖縄戦のドキュメンタリー上映と平和関連の絵本の読み聞かせ、パネル展示を行う。
今回は沖縄県立図書館との連携もあり、本の紹介も行った。

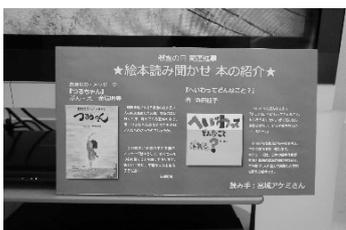
- ①本土復帰 30 周年記念「沖縄戦記」DVD（博物館）②沖縄戦パネル（博物館）
- ③平和に関する絵本の読み聞かせムービー（美術館）④本紹介資料（沖縄県立図書館）



●撮影の様子



●図書館との連携(本の紹介)



●エントランスにて上映



移動展・職場体験

移動展 in 渡嘉敷島（2021 年度に延期）

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月かけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん当館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である博物館資料や美術品を移動展の展示として見ってもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。美術館班は、その会場の条件にあわせて美術館コレクションギャラリーを感じていただける展示を目指している。

そのような趣旨から毎年開催しており、今回は、渡嘉敷島で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で次年度に見送られた。 ※下記の内容は、今年度の実施予定案

【体制】 主催：沖縄県立博物館・美術館、(一財)沖縄美ら島財団、渡嘉敷村、渡嘉敷教育委員会
協力：沖縄博物館友の会、NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ

【実施地域】 渡嘉敷村

【会期】 令和2年12月11日（金）～12月13日（日）／午前9時～午後5時

【会場】 渡嘉敷村中央公民館

- 【展示内容】
- ① 「展覧会展示パネル」展覧会概要パネルの展示
 - ② 「沖縄の映画」県出身監督作品『執念の毒蛇（弁士入り）』上映 ※当館収蔵作品
 - ③ 収蔵作品展示（複製画・彫刻レプリカ・彫刻）
 - ④ 教育普及ワークショップ



●前年度の様子

美術館 職場体験

職場体験とは、生徒が事業所などで実際に仕事を体験したり、働く人々と接したりする学習活動である。美術館・博物館では、バックヤード施設見学や展示室で鑑賞プログラムの体験、学芸員の仕事の手伝いを行う。また接客業務や企画展の交流員として、お客様の対応にも挑戦するなど、多くの仕事に触れられる内容としている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で学校からの依頼はあったが、実施は出来なかった。



●概要説明



●新聞記事切り抜き



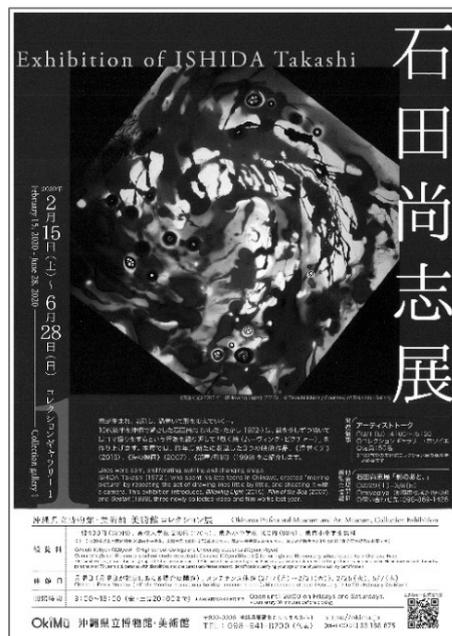
●図録郵送準備

石田尚志展

(会期:令和2年2月15日(土)~令和2年6月28日) ※会期延期10/11(日)

現代美術及び映像の領域で大きな注目を集める石田尚志(いしだたかし、1972-)。抽象的な線を少しずつ描いてはコマ撮りするという行為を繰り返して「動く絵(ムービングピクチャー)」を創り上げる。本展では、新たに収集した石田の映像作品を紹介し、併せて彫刻作品を特別展示した。新型コロナウイルス感染拡大防止のための閉館期間を挟み、会期を当初予定から約3カ月延長した。(大城さゆり)

※令和2年3月1日に予定していたアーティストトークは、新型コロナウイルスの影響で、開催2日前の2月28日に中止が決定した。トークに際して彫刻作品を設置するパフォーマンスを行う計画であったため、同日に臨時で石田氏が彫刻作品を設置した。



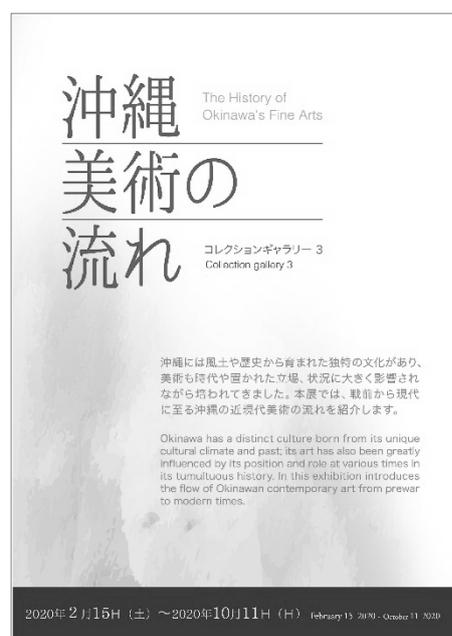
沖縄美術の流れ

(会期:後期◆令和2年2月15日(土)~令和2年10月11日(日))

当館のコレクションのなかから約50点の作品を紹介し、戦前・戦後の沖縄美術の流れをたどる。沖縄には風土や歴史から育まれた独自の文化があり、美術も時代や置かれた立場、状況に影響されながら培われてきた。本展では海外で活躍する沖縄ゆかりのアーティストの作品も併せて紹介した。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言により閉館期間が生じ、会期末を当初予定から約3カ月延長して10月へ変更した。(大城さゆり)

【展示内容】

- 第1章 日本化と近代化
- 第1章-2 戦時中
- 第2章 焼け跡からの新たな出発
- 第3章 移り行く景色の中で
- 第4章 いま、ここを見つめる
- 第5章 UCHINANCHU



大城精徳の仕事

会期：令和2年2月15日(土)～令和2年6月28日(日)※会期延期10/11(日)

本展は、大城精徳（おおしろせいとく、1928-2007）の絵画と資料を紹介する県内初の回顧展となった。大城は、沖縄の画家、名渡山愛順に師事したのちに、琉球美術展をはじめ戦後草創期のグループ展に名を連ねる。琉球政府博物館の学芸員を辞してからは琉球文化社を設立し、雑誌「琉球の文化」を刊行、美術工芸論の発展に寄与した。今回は未発表の油彩と水彩 22 点と、スケッチなどの資料を展示した。また、臨時休館中に展示解説映像を作成し、当館ホームページで公開した。

（豊見山 愛）

□ギャラリートーク+キュレータートーク

令和2年5月29日(土) 14:00～15:30 の開催予定であったが、新型コロナウイルス蔓延防止のため中止を重ねたため、宮城篤正氏のギャラリートークを撮影し、展示室にて期間中上映することとなった。

【会 場】コレクションギャラリー2

【講 師】宮城篤正（元・沖縄県立芸術大学学長）

【撮影日】令和2年6月15日(月) 15時から16時

【内 容】1981年に「新生美術協会」を設立した際、大城精徳と関わりの深かった星雅彦氏と宮城篤正氏によるギャラリートークを企画。しかし新型コロナウイルスの影響で中止となり、急遽、大城精徳が教員をしていた頃の教え子であり、さらに博物館学芸員としても後輩にあたる画家の宮城氏にご協力いただき、講話の撮影を行った。会期中、当館ホームページと展示室にて上映をして好評を博した。



●宮城篤正氏



●宮城氏と担当学芸員（豊見山）



●大城精徳展会場で宮城篤正氏の講話上映

沖縄美術の流れ (写真)

(会期：◆令和2年10月20日(火)～令和3年6月27日(日))

美術館コレクション展では、美術館が収蔵している作品のなかから、テーマに沿った作品を選び、沖縄の美術を様々な切り口で紹介している。今回は、戦後沖縄の写真界を牽引した山田 實の作品を紹介する「沖縄美術の流れ(写真)」、子どもに焦点をあてた「子どもの情景」、近現代の沖縄美術を総合的に紹介する「沖縄美術の流れ」を開催した。

(亀海史明)

【展示内容】

山田 實(やまだみのる、1918-2017)は、沖縄県那覇市出身の写真家で、沖縄に住む子どもたちを数多く撮影している。召集を受けて戦地に赴き、戦後抑留を経て生還した山田は、戦禍による荒廃から復興する沖縄を巡り、苦境にありながらも健気に生きる子どもたちを撮り続けた。今回のコレクション展では、当館所蔵の山田 實作品の中から〈子どもたちのオキナワ〉シリーズを紹介した。

□学芸員講座+ギャラリートーク

【日 時】令和2年11月7日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】23人

【講 師】山田 勉(写真家)

高良由加利(琉球新報元記者・県立高校教師)

【進 行】亀海史明(展覧会担当学芸員)

【内 容】山田 實『子どもたちのオキナワ 1955-1965』を取り上げ、ゲストから山田氏の制作に込めた思いや様子を伺った。

【参加者の声】

- 作家について、話し合うということは美術的な視点だけではなく、人間としての作家を見ることが出来た。それぞれ見ている視点が違うので、作家に対する理解が異なっているのも面白い部分だった。
- 山田實のエピソードとして一番興味深かったことは、最後に国体の子どもたちを撮影して「もうこれで大丈夫だ」と思い、それから子どもを主題にしなくなったという話である。希望の象徴であったオキナワの子どもたちを追いかけていた山田實にどう映ったのか。その節目の心情を想像しながら改めて展示を鑑賞することが出来た。変化していったオキナワ、このもう訪れることのない時代への関心が深まった講座だった。



●山田 勉氏・高良由加利氏



●亀海学芸員解説

子どもの情景

(会期：令和2年10月20日(火)～令和3年6月27日(日))

本展は、美術館コレクションの中から「子ども」にスポットをあて、絵画、写真、彫刻、版画など30点の作品が並び、10名の沖縄の作家と4名の県外の作家、そして4名の海外の作家を紹介するものである。「子どもから見た大人の世界」と「大人から見た子どもの世界」の2つに分け、アートを通して感じられる社会のありようを紹介した。

(会期中、一部展示入れ替えあり) (豊見山 愛)

□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】令和2年11月28日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー2

【講 師】豊見山 愛(担当学芸員)

【参加者】24人(定員に達したため入場制限した)

【内 容】ウェイ・ドン、榎本正治、山元恵一、安谷屋正義、大嶺政寛の作品に焦点をあて、絵画に込められた作者のメッセージと時代背景について解説。

【参加者の声】

- 作品のことを深く知ることができた。貴重な話だった。
- 絵画がどのような意図で描かれたものなのか考えると面白い。
- 絵についての解釈を人から聞けることがあまりないので興味深かった。

□アーティストトーク「体は壊れても、命は生き続ける。」

【日 時】令和2年12月5日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー2

【講 師】木下 晋(画家)

【進 行】豊見山 愛(展覧会担当学芸員)

【参加者】25人(定員に達したため入場制限した)

【内 容】出品作家の一人である木下 晋氏に、鉛筆画に至る背景と作品についてお聞きした。

【参加者の声】

- 作者の生の声を聞くことが出来た。人生の背景を知ると作品の理解が深まった。今もなお求めているものがある姿勢に感動した。



● 講座内容の一部(豊見山作成、転載不可)



● 講師の木下 晋氏(右)と豊見山学芸員



● 自作の前で語る講師の木下 晋氏と担当学芸員

展覧会関連催事 沖縄美術の流れ

(会期：通年◆令和2年10月20日(土)～令和3年6月27日(日))

本展は、当美術館が調査、収集したコレクションの中から選んだ30点から50点程の美術作品を紹介するものである。

沖縄にはその風土や歴史から育まれた独自の文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場、状況に大きく影響されながら培われてきた。本展では、沖縄の近現代美術の流れを総合的に紹介する。なかでも、戦後沖縄美術を牽引したひとりである安谷屋正義(あだにやまさよし、1921-1967)に焦点をあて、その作品を紹介した。(富原圭子)

【展示内容】

第1章 戦後復興期～前衛の芽生え(1945年-1972年)

第2章 安定の中の模索(1972年-1990年代)

第3章 複数の沖縄(1995-現在)

□ギャラリートーク インタビュー

【日時】 令和2年10月19日(月) 15:00～16:30

【会場】 美術館ホワイエ

【講師】 栗国久直(アーティスト)

【撮影協力】 寺本典加・金城ひかり

(NPO法人沖縄県立美術館支援会 happ)

【内容】 展示されている作品『Cube-Sugar&Strawberry』の構想から完成に至るまでのエピソードやデビュー作から現在まで続く作品のテーマなど、作家が日頃から考えていることについてお話頂いた。撮影したインタビューは、会期中ホワイエで上映している。

□ギャラリー鑑賞ツアー

【日時】 令和2年12月19日(土) 13:00～

【会場】 コレクションギャラリー3・美術館バックヤード

【解説】 富原圭子(展覧会担当学芸員)

【参加者】 10人(親子)

【内容】 鑑賞サポートシートを使った対話型鑑賞

【参加者の声】

- バックヤード楽しかった。いっぱい絵をみてお気に入りの絵を見つけた。



●栗国氏にインタビュー



●『Cube-Sugar & Strawberry』



●鑑賞ツアーでの子どもたちの様子

稲嶺成祚 きごうの、ふうけい

(会期：令和2年9月18日(金)～令和2年11月3日(火))

沖縄の美術家にスポットをあてた「沖縄の美術シリーズ」として、沖縄の美術・文化の普及に尽力した画家、稲嶺成祚（いなみねせいそ、1932-）の仕事を、初期から近作まで振り返る回顧展です。

稲嶺は、1951年に琉球大学美術工芸科に入学し、在学中に沖縄への出品を始め、その画業をスタートさせました。卒業後は1年間東京に滞在して様々な西洋絵画を観る中で、これまで学んだアカデミックな油彩画に疑問を抱くようになり、伝統的な西洋画の様式から脱却した平面的な画面を志向するようになりました。その後は「何を描くかも大事だが、どのように描くかの方に、より重大なメッセージが入る」と語り、独自の様式を作り出そうと試みます。その模索の中で、稲嶺の様式は幾度か変化を迎えました。本展はその作風の変遷をたどり、60年以上にわたる画業の独自性を検証しました。（大城さゆり）

□オープニング+ギャラリートーク

【日 時】令和2年9月18日(金) 10:00～11:00

【会 場】アトリウム・企画展示室

【参加者】50人

【講 師】稲嶺成祚（画家）

【内 容】開会式後に作家本人が、画家としてのこれまでの活動とともに、それぞれの作品に込めた思いや制作過程、変遷について解説した。

□学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】令和2年10月3日(土) 14:00～15:00

【会 場】企画展示室

【参加者】14人

【講 師】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【内 容】展示会場を第1章から第4章まで巡りながら、活動の変遷やターニングポイントとなった作品等について解説した。それぞれの作品に関する写真や手紙、新聞報道など、制作当時を知る資料パネルなども見ながら、作品の背景など裏話を交えて説明した。



●稲嶺成祚展オープニング テープカット



●オープニングギャラリートーク

□座談会（ビデオ撮影）

当初座談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防対策として映像公開に切り替え、画家 3 名が気になる稲嶺作品を選んで紹介し、稲嶺氏がそれぞれの作品解説をする内容で撮影を行った。映像はエントランスで公開した。

【撮影日】令和 2 年 9 月 24（木）25 日（金）10:00~11:00

【講 師】稲嶺成祚（画家）石垣克子（画家）
宜保朝子（画家）町田隼人（画家）

□ワークショップ

【日 時】令和 2 年 10 月 3 日（土）10:00~12:00

【会 場】県民アトリエ・子どもアトリエ

【講 師】稲嶺成祚（画家）

【参加者】14 人（定員 15 人）

【内 容】5 色の絵の具でどんな作品が出来るか、水彩絵具の特徴や混色の技術を学びながら絵画制作を行った。

□クロストーク

【日 時】令和 2 年 10 月 24 日（土）14:00~16:30

【会 場】講堂

【参加者】48 人

【講 師】稲嶺成祚（画家）、崎山律子（那覇市文化協会会長）
永津禎三（琉球大学名誉教授）
仲間伸恵（琉球大学准教授）
前田比呂也（那覇市立寄宮中学校校長）

【内 容】第 1 部で崎山律子氏によるインタビューを行い、画家としての稲嶺成祚像を探ることが出来た。
第 2 部では、稲嶺氏に加え、琉球大学で同僚として交友した永津禎三氏と教え子の仲間伸恵氏、前田比呂也氏をお招きして、教育者としての稲嶺像についてお話を頂いた。

【参加者の声】

- コロナの影響で「ライブ」が久しぶりでやっぱりライブは大切だと思った。稲嶺先生の人としての魅力を改めて感じた。画像と説明のおかげで分かりやすかった。毎年リウボウの個展を楽しみにしている。
- 崎山さんの豊かな表現力に支えられたトークセッションだった。「引き出す力」って大事だと思った。



●気になる稲嶺作品を紹介（石垣氏 映像）



●ワークショップの様子



●クロストークの様子（第 1 部）



●クロストークの様子（第 2 部）

石川真生展

醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。

(会期：令和3年3月5日(金)～令和3年6月6日(日))

本展覧会は、海外でも広く紹介され、いまなお精力的な制作活動を続ける写真家・石川真生を紹介するものである。

石川真生(いしかわまお、1953-)は、沖縄県大宜味村生まれ。1974年、WORKSHOP写真学校東松照明教室で写真を学び、沖縄を拠点に制作活動を続け、沖縄を巡る人物を中心に、人々に密着した作品を発表し続けている。日本国内の他、メトロポリタン美術館など、海外の美術館にも作品が収蔵されている。

本展では、初期のシリーズから最新作に至るまでの全15シリーズを紹介し、石川真生の作品の実像に迫るもので、発表当時のヴィンテージプリントを中心に、47年にも及ぶ制作活動を総覧する大規模な個展となっている。

(亀海史明)

□ギャラリートーク(予定)

【日 時】令和3年3月6日(土)、27日(土)、4月17日(土)
5月8日(土)、22(土)、6月6日(日)
14:00～15:00

【会 場】企画展示室

【講 師】石川真生(写真家)

【内 容】それぞれの写真のエピソードについて、作家本人が展覧会を回りながら解説する。

□シンポジウム(予定)

シンポジウムでは、作家にゆかりのある講師を招き、それぞれの現場から見える石川真生の写真についてお話しいただく。海外でも広く紹介されている作品の魅力を、様々なテーマを通して紹介する。

【日 時】：5月9日(日) 14:00-17:00 (13:30開場)

【会 場】：3F 講堂

【講 師】天野太郎(キュレーター)

グレッグ・ドボルザーク(早稲田大学教授)

仲里 効(映像批評家)

友利真由美(石川真生世話役)



令和2年度美術館事業統計報告

教育普及事業

※敬称略

1. シンポジウム・講演会・上映会

| 回 | 月日 | 曜 | シンポジウム・講演会 | 参加者 |
|---|--------|---|--|-----|
| 1 | 10月24日 | 土 | 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 クロストーク 講師：稲嶺成祚（画家）、崎山律子（那覇市文化協会会長） 永津禎三（琉球大学名誉教授）、仲間伸恵（琉球大学准教授） 前田比呂也（那覇市立寄宮中学校校長） 進行：大城さゆり（展覧会担当学芸員） | 48 |
| 2 | 10月25日 | 日 | おきみゅーシネマラボ 講師：富本 実（映画監督）、謝花 謙（映画監督） 真喜屋 力（沖縄アーカイブ研究所） 進行：亀海史明（当館学芸員） | 55 |

2. アーティスト（ギャラリー）トーク（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

| 回 | 月日 | 曜 | 展覧会名 | 参加者 |
|---|----------------|--------|---|-----|
| 1 | 5月30日 | 土 | 「石田尚志」関連催事 ギャラリートーク 講師：石田尚志（アーティスト） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 | / |
| 2 | 6月15日 | 月 | 「大城精徳の仕事」展関連催事 大城精徳の仕事について語る 講師：宮城篤正（元沖縄県立芸術大学学長、画家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため講話を撮影しホームページで公開 | / |
| 3 | 9月18日 | 金 | 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」オープニングギャラリートーク 講師：稲嶺成祚（画家） | 50 |
| 4 | 9月24日 9月25日 | 木 金 | 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 座談会（撮影） 講師：稲嶺成祚（画家）、石垣克子（画家）、 宜保朝子（画家）、島袋隼人（画家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前に撮影し会期中エントランスで公開 | / |
| 5 | 12月5日 | 土 | 「子どもの情景」関連催事 ギャラリートーク 木下晋トーク 体が壊れても、命は生き続ける。 講師：木下 晋（画家） | 25 |

3. キュレータートーク・学芸員講座（展示会担当学芸員による作品・作家解説）

| 回 | 月日 | 曜 | 展示会名 | 担当 | 参加者 |
|---|--------|---|--|-------|-----|
| 1 | 9月5日 | 土 | 学芸員講座「保存修復の現場から」 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 | 梶原正史 | / |
| 2 | 10月3日 | 土 | 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 学芸員によるギャラリートーク | 大城さゆり | 14 |
| 3 | 11月7日 | 土 | 山田 實『こどもたちのオキナワ 1955-1965』 学芸員講座+キュレータートーク 講師：山田 勉（写真家） 高良由加利（琉球新報元記者・県立高校教諭） | 亀海史明 | 23 |
| 4 | 11月28日 | 土 | 美術館学芸員講座「子どもの情景」 学芸員講座+キュレータートーク | 豊見山 愛 | 24 |

4. 美術館ミュージアムツアー

- ①内 容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを学芸員が案内する
- ②定 員：12名
- ③時 間：10:30～12:00
- ④場 所：トラックヤード、一時保管庫、収蔵庫、工作室、修復室、展示室作品鑑賞

| 回 | 月日 | 内 容 | 担 当 | 参加人数 |
|---|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 | 5月23日 | 伝える（教育普及） | 富原圭子 | コロナ拡大防止のため中止 |
| 2 | 7月18日 | 集める（資料収集） | 亀海史朗 | 10 |
| 3 | 9月12日 | みせる（展示公開） | 大城さゆり | 8 |

| | | | | |
|---|-------|------------|------|--------------|
| 4 | 11月3日 | まもる（保存・修復） | 梶原正史 | 12 |
| 5 | 2月20日 | 調べる（調査研究） | 豊見山愛 | コロナ拡大防止のため中止 |

5. 教員講座（事例発表・実技研修）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

| 回 | 月日 | 曜 | 内容 | 担当 | 参加者 |
|---|--------------|---|--|-----------------|-----|
| 1 | 8月4日 (午前) | 火 | 小学部ワークショップ「絵具」指導について 中学部ワークショップ「美術の授業展開及び情報交換会」 | 大塚義孝 (ぺんてる株) | / |
| 2 | 8月4日 (午後) | 木 | 小・中共通記念講演 「これからの造形美術教育～AI時代の課題」 | 奥村高明 | / |

6. ボランティア勉強会

(コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00) 対象：登録ボランティア

| 回 | 月日 | 曜 | 講義内容 | 参加 |
|---|-------|---|-------------------------------|----|
| 1 | 4月15日 | 水 | 職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会、研修報告。(中止) | / |
| 2 | 5月13日 | 水 | コレクション展勉強会(中止) | / |
| 3 | 7月22日 | 水 | 前年度振り返り・概要説明・展示解説 | 11 |
| 4 | 8月19日 | 水 | 沖縄県立図書館 館外研修(中止) | / |
| 5 | 3月末 | 水 | 今年度を振り返り(成果と課題)(中止) | / |

7. アートコンクール

.....1484 作品応募

実施計画表

展示期間：10/27～11/23

| 回 | 期日 | 内容 | 回 | 期日 | 内容 |
|---|--------|-------------|----|------------|------------------|
| 1 | 5月15日 | アートコンクール提案 | 9 | 10月16日～20日 | 表彰式案内郵送 |
| 2 | 6月10日 | 実施要項起案 | 10 | 10月16日～26日 | 賞状・立て看作成 |
| 3 | 5月中旬 | チラシ・応募用紙検討 | 11 | 10月26日 | 展示作業・出欠確認 |
| 4 | 6月25日 | 小中高応募用紙郵送 | 12 | 11月3日 | 表彰式(13:30～14:00) |
| 5 | 10月14日 | 作品メ切 | 13 | 11月24日 | 展示作品撤収 |
| 6 | 10月15日 | 審査 | 14 | 12月1日 | 佳作者賞状郵送 |
| 7 | 10月16日 | 表彰式打合せ・要項起案 | 15 | " | 各学校、個人に作品返却 |
| 8 | 10月20日 | 入賞者 HP 発表 | | | |

8. ワークショップ

(1) 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 色を楽しもう！ワークショップ.....14人参加

- ① 日 時：令和2年10月3日(土) 10:00～12:00
- ② 内 容：5色の絵具を使い、水彩絵具の特徴や混色の技術を学びながら絵画を制作
- ③ 講 師：稲嶺成祚(画家)
- ④ 対 象：小学校3年から高校生
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(2) OKINAWA アートワークショップ「六角形の畳をつくろう」.....20人参加

- ① 日 時：令和2年10月17日(土) 9:30～12:00
- ② 内 容：琉球畳と他県の畳の違いや原材料のビークの生産について学び、畳の帯付けを体験
- ③ 講 師：益田伸次、岩本久和、伊波 孝、下地 智
- ④ 対 象：小学校5年から一般
- ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ

(3) こどもフェスタ秋①「ヒージャー山羊博士！学んで作って撮影会」.....11人参加

- ① 日 時：令和2年10月31日(土) 9:30～12:00
- ② 内 容：沖縄では身近な存在の山羊について生態やルーツ、骨格などを学び、粘土で山羊作りに挑戦
- ③ 講 師：坂元 蘭(画家)、金城辰海(彫刻家)
- ④ 対 象：小学校3年から中学校3年
- ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ

- (4) こどもフェスタ秋②「首里城の瓦でこねて ねじって つくもがみ！」……………12人参加
 ① 日 時：令和2年10月31日(土) 13:30～16:30
 ② 内 容：首里城の破損瓦を材料にし、瓦に宿るつくも神をイメージして立体作品を制作
 ③ 講 師：有川愛乃、比嘉光里、金城 桜(学びアトリエわりたまご)
 ④ 対 象：小学校1年から4年
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (5) OKINAWA アートワークショップ「糸満ハリコ絵付け体験！」……………14人参加
 ① 日 時：令和2年11月1日(土) ①9:30～11:30 ②13:00～15:00
 ② 内 容：ユッカヌヒーなど沖縄の文化と張り子の関係を学び、実際に絵付けを体験
 ③ 講 師：赤嶺康浩(工房ニャン山)
 ④ 対 象：小学校3年から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (6) OKINAWA アートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦！」……………18人参加
 ① 日 時：令和2年11月7日(土)、8(日) 10:00～15:00
 ② 内 容：首里城の破損瓦を使い、職人の手ほどきを受けながら本格的な漆喰シーサーを制作
 ③ 講 師：山城富画、大城幸祐、城間盛行、田端 忠、古堅智貴(沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合)
 ④ 対 象：小学校1年から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (7) OKINAWA アートワークショップ「干支紅型でお正月支度」……………30人参加
 ① 日 時：令和2年12月19日(土) ①10:00～12:00 ②14:00～16:00
 ② 内 容：紅型の歴史や技法を学びながら、2021年の干支「丑」の紅型づくりを楽しむ
 ③ 講 師：吉濱 愛、玉城政子(城紅型染工房)
 ④ 対 象：5才から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (8) OKINAWA アートワークショップ「不思議な金属『錫』を溶かしてネームプレートをつくろう」…18人参加
 ① 日 時：令和3年1月16日(土) ①10:00～12:00 ②14:00～16:00
 ② 内 容：琉球王朝時代から重宝されていた錫でネームプレート作りに挑戦
 ③ 講 師：上原俊展(金細工まつ)
 ④ 対 象：小学校5年から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
- (9) OKINAWA アートワークショップ「琉球漆器 沈金を楽しもう」……………■人参加
 ① 日 時：令和3年2月20日(土) 9:30～12:30
 ② 内 容：歴史や技法、工芸士が使う道具などの解説を聞きながら沈金作品を制作
 ③ 講 師：漆実験工房
 ④ 対 象：小学校4年から一般
 ⑤ 会 場：こどもアトリエ、県民アトリエ
 ※新型コロナウイルスの影響で次年度に延期
9. 博物館・美術館連携事業
 慰霊の日特別企画 「平和ってなに??」美術館えほん読み聞かせ・ミニ展示
 ① 日 時：令和2年6月20日(土)～6月28日(日)
 ② 内 容：絵本「つるちゃん」「へいわってすてきだね」朗読映像、沖縄県立図書館推薦図書パネル展示
 ③ 講 師：宮城アケミ(沖縄大学教授)
 ④ 場 所：エントランスホール
10. 職場体験 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施校なし……………/人参加
 キャリア教育の具体的理解として、生徒が実際に現場で働く人と接しながら職業や仕事を体験し、「働くこと」について学習する。当館では、館内施設の見学や接客、博物館・美術館の業務体験を行う
 ① 対 象：県内中学校・高等学校
 ② 方 法：各学校からの依頼により実施
 ③ 場 所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室
 ④ 内 容：施設見学、美術館班資料整理、各業務体験
11. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」……………154人参加
 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う
 ① 対 象：本島域内小中学校、特別支援学校等
 ② 方 法：公募により学校を選定
 ③ 場 所：コレクション展示室
 ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援
 ※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公募とボランティアによる鑑賞学習支援は中止

| 回 | 月日 | 曜日 | 学校名 | 見学者 |
|---|--------|----|------------------|-----|
| 1 | 10月6日 | 金 | 宜野湾市立志真志小学校①(5年) | 60 |
| 2 | 10月7日 | 金 | 宜野湾市立志真志小学校②(5年) | 62 |
| 3 | 10月30日 | 金 | 南城市立百名小学校(6年) | 32 |

12. 団体見学対応133人参加
 (鑑賞ボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム)

| 回 | 月日 | 曜日 | 学校名 | 内容 | 見学者 |
|---|--------|----|------------|------------------------------------|-----|
| 1 | 8月5日 | 水 | おきなわ県民カレッジ | 美術館コレクション展・博物館常設展 | 19 |
| 2 | 9月24日 | 木 | 沖縄県立石川高等学校 | 美術館コレクション展・美術館企画展 博物館企画展、博物館常設展 | 8 |
| 3 | 11月20日 | 金 | 沖縄市立室川小学校 | 美術館コレクション展・バックヤード 博物館常設展 | 48 |
| 4 | 11月27日 | 金 | 糸満市立高嶺中学校 | 美術館コレクション展・バックヤード 博物館常設展 | 48 |
| 5 | 12月19日 | 土 | 子どもアトリエネロ | 美術館コレクション展・バックヤード | 10 |

13. 出前授業2校

*美術館収蔵作品ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー・キャリア教育

| 回 | 月日 | 曜日 | 学校名 |
|---|-------|----|---------------------------------------|
| 1 | 9月10日 | 木 | 宜野湾市立志真志小学校(ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー) |
| 2 | 11月5日 | 木 | 沖縄市立室川学校(ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー) |

14. 研修対応

学芸員実習

- ① 期間: 令和2年10月26日(月)~11月28日(土)の期間6日間(土、日の催事参加)
- ② 参加者: 11名(沖縄県立芸術大)
- ③ 内容: 保存保管環境、展示方法、絵画・彫刻・写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

| 回 | 期日 | 内容 |
|---------------------|-----------|--|
| 1 | 10月26日(月) | 開講式・オリエンテーション 仲嶺 美術館業務の考え方と実際 富原 実習確認・施設案内 |
| 2 | 10月27日(火) | 富原 ●教育普及事業Ⅰ●各種教育活動の様子教育普及事業Ⅱ●共通課題研究説明 |
| 3 | 10月30日(金) | 大城 ●常設展示構成・展示の実際Ⅰ●展示意図・構成等について●展示企画書の作成 |
| 4 | 11月2日(月) | 梶原 ●IPM講習●資料保存・修復の実際●資料の修復実習●平面・立体資料の取扱い |
| 5 | 11月11日(金) | 豊見山 ●調査研究の概要・作品調査の方法●収集・展示等の調査●常設展示の実際 |
| 6 | 11月26日(木) | 亀海 ●資料収集事業の概要●資料の分類・情報処理●平面資料の取扱い(写真・版画) |
| 10/31(土)9:00-15:00 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★こどもフェスタ秋</p> <p>★張り子ワークショップ</p> <p>★ミュージアムツアー(梶原)★稲嶺展撤収作業</p> <p>★漆喰シーサーワークショップ1日目</p> <p>★ギャラリートーク(亀海)14:00~</p> <p>★漆喰シーサーワークショップ2日目</p> <p>★豊見山学芸員講座</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>【共通課題】</p> <p>○美術館で行われる催事(2つ)に参加し、レポート(A4)1枚提出</p> <p>○学科実践事例提出</p> </div> |
| 11/1(日)9:00-15:00 | | |
| 11/3(火)10:30-12:00 | | |
| 11/7(土)①9:30-14:00- | | |
| 11/8(日)②9:30- | | |
| 11/28(土)14:00-15:30 | | |

[さいごに]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人との何かが結びつく機会をつくっていく活動です。その中で新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

令和2年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2021年3月31日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-941-8200 (代表)

教育普及担当
富原圭子 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (一般財団法人 沖縄美ら島財団)